

II. 統計

1. 実績の概要

(1) 産科部門診療実績

産科部門については診療所、助産所を含む県内全ての分娩取扱医療機関にデータ提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は11病院、16診療所、8助産所となっている。

本調査による2019年の総分娩数は9,167例であった。うち病院が4,079例で44.5%、診療所が4,876例で53.2%、助産所が212例で2.3%となっている。

早産と定義される37週未満の分娩は476例で全体の5.2%となっている。また低出生体重児は762例で8.3%となっている。診療所でも210例（全低出生体重児のうちの27.6%）の低出生体重児を扱っている。高年出産とされる35歳以上での出産は2,892例であり、全体の31.5%となっている。

合併症妊娠では糖尿病（妊娠糖尿病（GDM）を含む）が最も多く257例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が945例で最も多い。

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	987	712	202	375	1,803	4,876	212	9,167
	経膈分娩	674	506	132	298	1,339	3,971	212	7,132
	帝王切開	313	206	70	77	464	905	-	2,035
	うち予定	166	115	40	49	272	517	-	1,159
	うち緊急	147	91	30	28	192	388	-	876
	帝王切開率(%)	31.7	28.9	34.7	20.5	25.7	18.6	-	22.2
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	76	58	6	-	2	2	-	144
	35週	38	22	4	3	3	9	-	79
	36週	62	30	5	9	53	94	-	253
	37週	146	122	16	44	210	323	18	879
	38週	246	168	69	77	453	1,101	37	2,151
	39週	225	139	37	105	483	1,508	73	2,570
	40週	181	152	50	113	473	1,398	62	2,429
	41週	60	51	15	21	124	405	22	698
	42週以上	-	-	-	-	1	15	-	16
	不明	2	-	-	-	-	-	-	2
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	28	16	-	-	1	1	-	46
	1,500-1,999g	52	37	5	1	4	5	-	104
	2,000-2,499g	145	99	14	22	121	204	7	612
	2,500g以上	811	590	183	349	1,676	4,645	205	8,459

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
出産時年齢	35歳未満	647	428	117	254	1,070	3,633	126	6,275
	35-39歳	246	217	62	93	655	1,016	73	2,362
	40-44歳	93	62	22	25	78	223	12	515
	45歳以上	1	5	1	3	-	4	1	15
合併症妊娠	子宮筋腫	59	34	10	12	41	92	1	249
	子宮筋腫（核出術後）	9	14	1	2	8	17	-	51
	卵巣嚢腫（腫瘍）	22	12	3	7	20	18	-	82
	子宮頸癌（含円錐切除後）	12	16	2	-	11	9	-	50
	子宮奇形	11	3	2	2	5	3	-	26
	甲状腺機能亢進症	18	9	4	2	11	15	-	59
	甲状腺機能低下症	41	25	16	8	23	29	-	142
	糖尿病（含GDM）	87	50	21	32	49	18	-	257
	喘息	25	12	11	20	25	41	-	134
	慢性腎炎	3	4	1	1	2	-	-	11
	本態性高血圧	15	7	-	2	18	6	-	48
	ITP	9	2	2	1	1	-	-	15
	自己免疫疾患	15	4	1	3	4	2	-	29
	循環器疾患	16	-	1	7	7	2	-	33
	精神科疾患（含てんかん）	44	41	6	8	8	12	-	119
	ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	9	-	1	2	3	2	-	17
	消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	14	3	2	2	13	3	-	37
その他	35	-	10	-	51	16	1	113	
産科合併症 (重複あり)	切迫早産（入院のみ） ・前期破水（早産期）	153	149	23	25	362	229	4	945
	妊娠高血圧症候群	57	50	12	8	75	111	-	313
	胎内胎児発育制限	76	35	2	5	39	58	-	215
	多胎妊娠	52	37	-	1	4	3	-	97
	前置胎盤	15	15	-	-	5	-	-	35
	産後出血	12	11	-	-	18	55	12	108
	子癇	-	2	-	-	2	-	-	4
	弛緩出血（羊水を含む出血量 800ml以上）	78	188	3	94	48	107	-	518
	常位胎盤早期剥離	11	5	3	-	6	10	-	35
	HELLP症候群	3	2	1	-	4	3	-	13
	低置胎盤	13	2	1	2	4	8	-	30
	血液型不適合	10	10	5	2	7	8	-	42
	羊水過多	14	6	1	1	8	16	-	46
	羊水過小	11	6	3	1	13	51	-	85
	先天異常	55	3	4	-	2	15	1	80
その他	88	-	-	-	3	2	1	94	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	24	9	-	2	6	28	1	70
	卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	1	-	2	5	-	-	8
	産道血腫除去術	4	1	1	-	-	7	-	13
	子宮動脈塞栓術	5	-	-	-	5	-	-	10
	子宮摘出術	1	-	-	-	1	-	-	2
	その他	-	-	-	-	3	12	-	15
輸血治療症例	16	9	4	1	15	10	-	55	

※参考

●医療機関別 特定妊婦数及び未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。

医療機関等において、特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである。

医療機関別 特定妊婦数及び未受診妊婦数報告内訳（各機関で分娩を取り扱った患者を対象）

	奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	西和医療 センター	生駒 市立	診療所	助産所	計	
2019年	特定妊婦数	34	11	1	-	16	-	18	-	3	-	-	51	-	134
	未受診妊婦数	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	計	36	14	1	-	16	-	18	-	3	-	-	51	-	139
2018年	特定妊婦数	56	16	4	-	18	-	19	1	3	-	-	41	-	158
	未受診妊婦数	-	2	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	5
	計	56	18	4	-	19	-	19	1	3	2	-	41	-	163

●妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等して支援が必要となった妊婦の数及び特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
総数	妊娠届出数	10,080	9,447	9,445	8,901	8,411
	支援が必要となった妊婦の数	1,296	1,384	1,995	1,803	1,817
	特定妊婦数	185	151	203	209	218
満11週以内 (3ヶ月以内)	妊娠届出数	9,507	8,971	9,034	8,526	8,032
	支援が必要となった妊婦の数	1,098	1,206	1,830	1,650	1,634
	特定妊婦数	122	104	158	155	157
満12週～19週以内 (第4月～第5月以内)	妊娠届出数	396	335	302	268	275
	支援が必要となった妊婦の数	130	106	103	101	115
	特定妊婦数	31	26	24	32	31
満20週～27週以内 (第6月～第7月以内)	妊娠届出数	76	55	53	44	50
	支援が必要となった妊婦の数	35	40	37	29	33
	特定妊婦数	16	8	16	10	12
満28週～分娩まで (第8月～分娩まで)	妊娠届出数	48	28	16	17	21
	支援が必要となった妊婦の数	22	22	14	17	20
	特定妊婦数	11	12	3	9	13
分娩後	妊娠届出数	9	1	7	2	5
	支援が必要となった妊婦の数	7	1	6	2	5
	特定妊婦数	2	0	2	1	2
不詳	妊娠届出数	44	57	33	44	28
	支援が必要となった妊婦の数	4	9	5	4	10
	特定妊婦数	3	1	0	2	3

(健康推進課調べ)

※支援が必要な妊婦：各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦
 ※特定妊婦：出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

(2) 小児・新生児部門診療実績

小児・新生児部門については従来通り、奈良県立医科大学附属病院（奈良医大）、奈良県総合医療センター（県総合）、近畿大学奈良病院（近大奈良）、天理よろづ相談所病院（天理よろづ）、市立奈良病院（市立奈良）からデータ集計を行った。

本調査による2019年の小児・新生児入院数は960例で、うち院内出生が811例、院外出生が149例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、206例であった。人工呼吸器管理症例数は181例で全体の18.9%であった。早期新生児死亡は3例、後期新生児死亡は0例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は145例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が66例と最も多い。

(例)

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	合計
入院数	院内出生	421	214	53	70	53	811
	院外出生	67	66	13	3	-	149
入院時疾患名	呼吸器疾患	74	91	11	15	15	206
	心・循環器疾患	18	5	1	-	-	24
	消化管疾患	23	10	16	1	4	54
	脳・神経疾患	8	4	2	-	-	14
	染色体異常 奇形症候群	12	3	2	-	1	18
	感染症	16	8	1	12	3	40
	代謝内分泌	13	1	-	10	1	25
	その他	324	158	33	35	29	579
人工呼吸器管理症例	入院数	488	280	66	73	53	960
	人工呼吸器管理症例数	113	54	8	6	-	181
	人工呼吸器管理症例率 (%)	23.2	19.3	12.1	8.2	0.0	18.9
早期新生児死亡数		1	2	-	-	-	3
後期新生児死亡数		-	-	-	-	-	-
新生児搬送収容数		64	67	12	2	-	145
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	24	41	-	1	-	66
	心・循環器疾患	6	2	1	1	-	10
	消化管疾患	14	7	7	-	-	28
	脳・神経疾患	2	1	1	-	-	4
	染色体異常 奇形症候群	1	2	-	-	-	3
	感染症	7	4	-	-	-	11
	その他	21	10	3	-	-	34

死亡例一覧

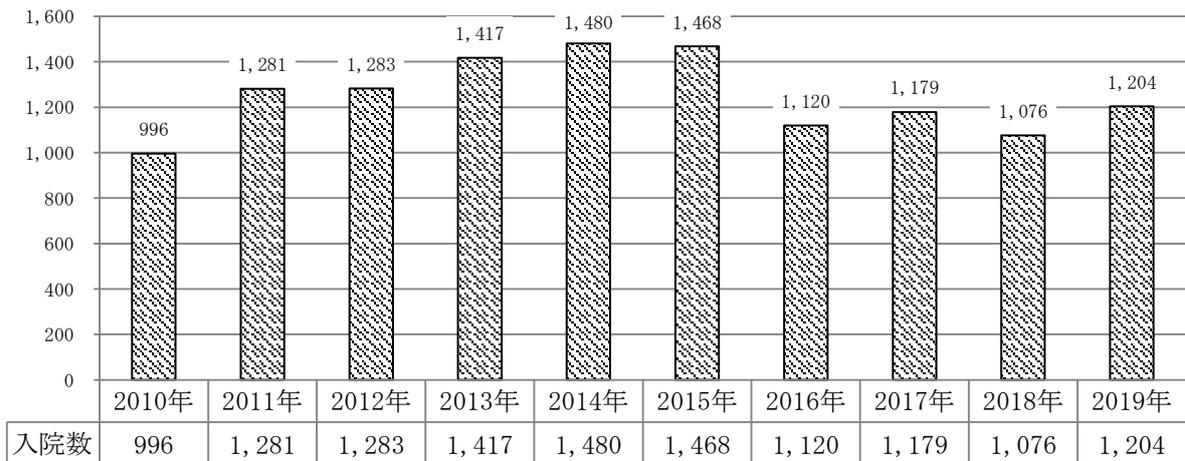
病院	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	男	34週0日	1288g	138日	Smith-Lemli-Opitz 症候群
	女	34週6日	2106g	0日	上顎体
	男	38週6日	2874g	41日	肺動脈閉鎖 右室低形成 冠動脈起始異常
県総合	男	38週	2980g	4日	虚血性低酸素性脳症
	男	24週	608g	1才1ヶ月	新生児慢性肺疾患・肺高血圧症
	女	37週	2474g	0日	新生児遷延性肺高血圧症

2. 奈良県立医科大学附属病院

(1) 産科部門診療実績

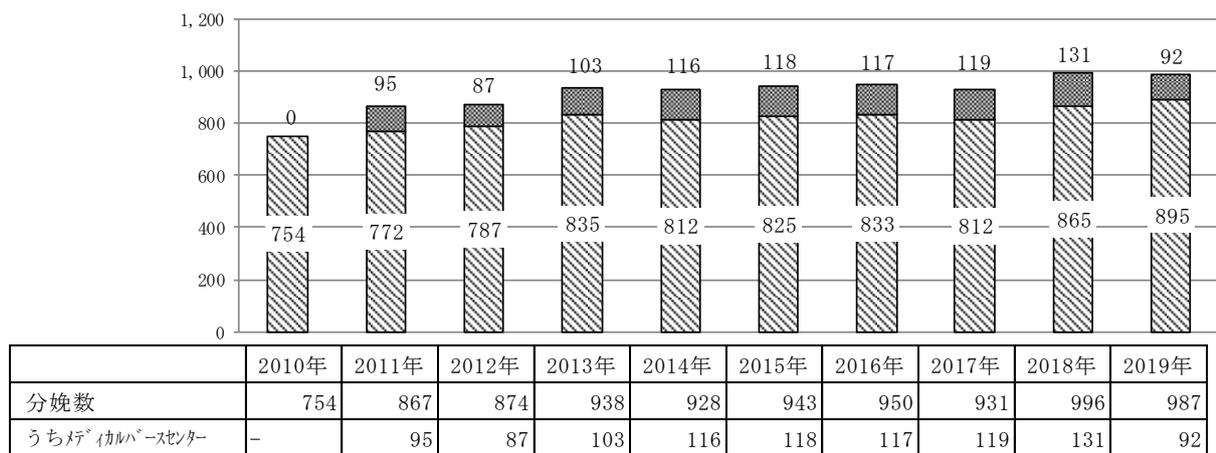
◆ 入院数（例）

2019年の奈良医大産科病棟への入院患者数は、2018年に比し再度増加傾向である。搬送受け入れ数はやや増加し、MFICU入院例も増加していることから、重症例が多かった可能性がある。



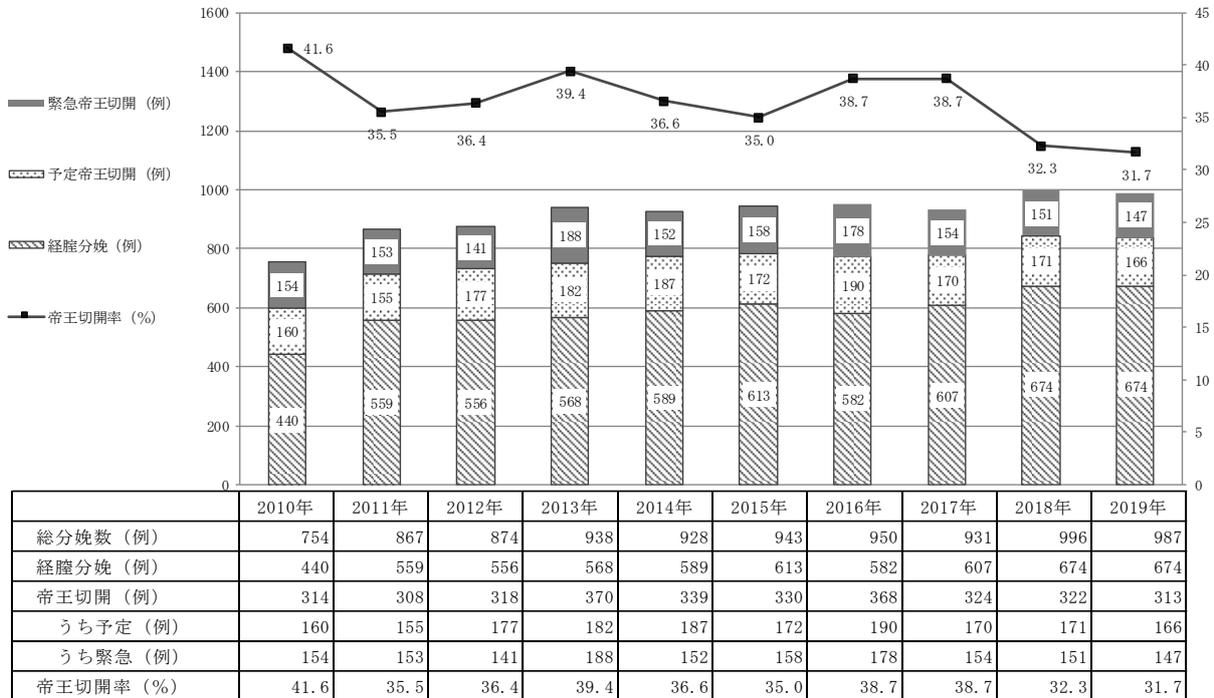
◆ 分娩数（例）

2019年の奈良医大産科病棟の分娩数は、過去最多を更新した2018年（996例）とほぼ同じである。



◆ 分娩様式

帝王切開率が更に低下傾向にあり、大学病院・総合周産期医療センターとしては極めて低い。超緊急帝王切開（全身麻酔クラッシュ挿管下）は10例あった。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

分娩週数については、2018年までに比し妊娠29週以前がやや少ない。管理内容の変化については解析が必要である。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
22週	1	-	-	-	2	3	1	2	1	1
23週	-	1	2	2	1	2	1	1	-	-
24週	3	2	-	2	3	5	2	4	2	1
25週	-	2	1	4	1	1	2	3	2	1
26週	6	1	-	1	5	2	3	4	4	1
27週	3	1	3	2	3	2	1	7	7	4
28週	5	7	5	5	4	8	4	1	3	-
29週	8	4	7	4	4	2	6	-	5	3
30週	5	6	3	3	3	4	3	5	9	7
31週	9	13	5	4	7	6	7	8	6	3
32週	10	11	9	16	7	9	8	11	8	8
33週	18	9	14	20	11	10	8	10	13	15
34週	20	14	21	22	8	10	21	20	17	32
35週	38	39	30	33	24	33	15	27	34	38
36週	41	59	54	54	41	77	62	46	56	62
37週	110	105	115	106	156	159	174	129	162	146
38週	150	159	198	246	208	209	225	221	243	246
39週	153	191	167	172	202	182	220	182	241	225
40週	112	157	172	183	168	203	177	182	175	181
41週	57	68	54	45	51	58	64	64	63	60
42週以上	5	3	1	-	-	4	1	2	-	-
不明	-	-	2	3	-	5	2	2	1	2

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

1,500g未満の極低出生体重児の入院数は28例で、ここ数年に比しやや少ない。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	2	-	3	-	5	7	3	9	3	2
500-999g	12	12	11	19	15	19	15	9	18	13
1,000-1,499g	26	26	16	27	25	13	20	20	17	13
1,500-1,999g	74	58	57	60	45	48	40	48	56	52
2,000-2,499g	148	155	129	165	136	137	135	143	141	145
2,500g以上	537	666	690	732	748	770	763	753	817	811

◆ 出産時年齢（例）

40歳以上の分娩数は大きな変化がない。当院では母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）の認定施設であるほか、臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーによる遺伝外来での相談にも応じている。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	-	-	593	632	644	610	636	614	671	647
35-39歳	-	-	212	239	225	250	240	249	257	246
40-44歳	-	-	68	64	56	79	72	103	89	93
45歳以上	-	-	1	3	4	4	2	2	5	1

◆ 合併症妊娠（例）

新基準が県内各施設に浸透したためか、GDMが増加傾向である。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	-	-	-	69	52	49	36	67	67	59
子宮筋腫（核出術後）	37	32	49	16	6	5	-	-	4	9
卵巣嚢腫（腫瘍）	8	15	8	26	22	25	25	20	4	22
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	11	7	9	7	9	-	15	3	12
子宮奇形	4	7	4	4	2	4	3	4	2	11
甲状腺機能亢進症	7	13	18	17	8	14	9	13	11	18
甲状腺機能低下症	6	11	6	11	17	14	17	35	31	41
糖尿病（含GDM）	15	31	28	39	45	54	62	67	62	87
喘息	14	24	26	49	19	25	28	19	14	25
慢性腎炎	7	5	7	3	1	12	4	1	1	3
本態性高血圧	4	12	9	16	12	12	13	13	10	15
ITP	6	7	5	9	-	-	-	-	5	9
自己免疫疾患	6	17	12	11	14	10	9	14	11	15
循環器疾患	10	15	14	8	17	14	-	-	16	16
精神科疾患（含てんかん）	29	48	43	58	47	49	43	25	47	44
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	7	14	10	6	9	11	5	5	3	9
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	5	17	6	8	13	12	20	8	78	14
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	63	35

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症の内訳には大きな変化がない。先天異常が増加する傾向にあり、超音波技術の向上で当科に紹介される胎内診断例が増えている可能性がある。

切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	182	188	164	151	131	109	115	177	114	153
妊娠高血圧症候群	69	66	52	51	49	49	51	63	58	57
胎内胎児発育制限	64	51	51	36	45	31	28	52	80	76
多胎妊娠	56	60	46	76	56	51	66	55	65	52
前置胎盤	26	27	28	20	14	21	16	21	10	15
産後出血	17	30	23	12	24	10	21		18	12
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）※	-	-	-	-	-	-	142	91	108	78
常位胎盤早期剥離	9	23	11	9	15	10	18	12	16	11
HELLP症候群	3	5	8	4	6	4		5	5	3
低置胎盤	16	19	12	15	12	6	13	19	5	13
血液型不適合	9	20	20	27	11	12	18	13	1	10
羊水過多	9	11	11	8	8	7	7	7	6	14
羊水過小	5	8	6	9	14	9	7	7	9	11
先天異常	50	56	53	25	28	-	36	20	35	55
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	261	88

※弛緩出血：帝王切開は1500ml以上。2015年以前は未集計

◆ 産科手術他（例）

産科手術について、子宮頸管縫縮術の実施数が2018年以降増加している。効果に関するエビデンスが出てきているため、当院でも症例によっては積極的に行っている。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	7	7	15	11	8	14	12	12	26	24
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	5	5	1	1	3	-	-	-	-
産道血腫除去術	4	9	1	5	8	1	-	-	8	4
子宮動脈塞栓術	6	6	6	8	5	3	1	8	5	5
子宮摘出術	2	2	-	3	4	4	2	1	-	1
胎児胸腹水穿刺	4	5	1	-	-	-	-	-	-	-
羊水除去	2	4	2	-	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2018年に比し同種血輸血例が増加した。自己血輸血は含まない。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	12	34	19	20	22	9	9	23	11	16

◆ NICU 収容症例数（例）

NICU 収容症例は病棟移転により当院の GCU が大幅に拡充された 2016 年 9 月以降、大幅に増加した。当院に多い薬物離脱症候群のフォローが必要な児などについても全例 GCU での管理を依頼し万全を期している。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
NICU収容症例数	151	128	111	147	131	160	195	377	401	426

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数についてはやや減少したが、三胎が二例あった。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
双胎	56	59	43	75	56	50	66	55	64	50
うちMD	18	34	15	24	19	37	20	22	44	38
うちDD	38	25	28	51	37	11	45	33	20	12
うち不明	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
三胎	-	1	-	1	-	1	1	2	1	2

◆ 母体搬送収容数（例）

母体搬送収容数は 2014 年以降大きな変動がない。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
母体搬送収容数	153	146	157	156	107	125	106	127	130	123

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）

母体搬送疾患の内訳については 2013 年にシステムによる集計を用い始めて以降、大きな差異はない。胎内胎児発育制限については外来紹介例が多いのと、妊娠高血圧腎症の診断基準に含まれるようになったこともあり、統計上搬送理由としてはほぼなくなった。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	89	75	77	87	49	56	44	62	59	74
妊娠高血圧症候群	27	17	22	13	7	10	5	9	14	19
胎内胎児発育制限	16	5	15	7	1	3	3	-	-	-
産後出血	11	15	15	6	16	12	12	20	16	10
胎児機能不全	12	9	15	8	2	1	4	3	4	4
常位胎盤早期剥離	4	14	9	11	8	8	7	3	4	6
前置胎盤	6	2	7	5	2	5	1	7	-	2
多胎	5	3	2	11	2	4	1	-	-	1
HELLP症候群	3	2	6	3	4	3	1	2	2	4
胎児奇形	6	1	1	-	3	1	1	2	3	-
未受診	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
その他	22	17	13	61	13	22	30	17	25	22

◆ 先天異常（例 重複あり）

例数や内訳に大きな変化はない。21トリソミーの診断例が多いが、出生前診断の増加に伴って当院に集中している可能性がある。

疾患名	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	症例数	胎内診断										
cystic hygroma	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2	3	3
18トリソミー	-	-	3	3	4	3	1	1	3	1	2	2
髄膜瘤	-	-	3	2	1	1	-	-	1	1	1	1
21トリソミー	7	5	3	1	4	2	3	3	1	-	9	6
手指異常（合指/多指）	1	-	3	-	2	-	-	-	1	-	6	-
脳室拡大	6	6	2	2	2	2	-	-	3	3	1	1
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	2	2	-	-	1	1	-	-	1	1
心室中隔欠損	2	1	2	1	5	2	1	1	4	4	5	3
仙尾部奇形腫	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
胎児水腫	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
骨系統性疾患	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
小腸閉鎖	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
無頭蓋症	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
尿道下裂	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	1	1	-	-	5	5	-	-	8	8	4	4
不整脈	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
胸腹水	1	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
無脳症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
水腎症	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1
両大血管室室起始	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	2
大血管転位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
脳瘤	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
気管軟化症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
尿道閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
腹壁破裂	2	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
筋ジストロフィー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
染色体微小欠失	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
片腎欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Potter sequence	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
脳梗塞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿管管遺残	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無眼球症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梁欠損	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
大動脈離断症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
硬膜下血腫	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
血管腫	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳腫瘍	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳出血	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0	-	-
頭皮欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
左心低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
小脳低形成	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1
頭蓋内嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
Ebstein奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
腹部リンパ腫	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
胎便性腹膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
胎児心不全疑い	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
肺動脈弁閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
先天性魚鱗癬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Beals症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Smith-Lemli-Opitz症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
鯉弓症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
右側大動脈弓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3
ヒルシュブルング病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
13トリソミー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
body stalk anomaly	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
副耳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Kommerell憩室	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
内反足	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
動脈管瘤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
血友病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
上顎腫瘍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
先天性幽門閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
肝嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

(※2017年の集計数値は若干の誤差がある可能性がある。)

◆ MFICU 入院患者数（例）

MFICU 入院患者数は著明に増加している。MFICU に入院した患者数であり、保険診療上の MFICU 加算算定外の患者も含まれている。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
院内症例	46	66	49	38	64	37	37	67	34	81
搬送症例	142	125	142	141	97	112	83	118	124	134
合計	188	191	191	179	161	149	120	185	158	215

◆ MFICU 入院適応（例）

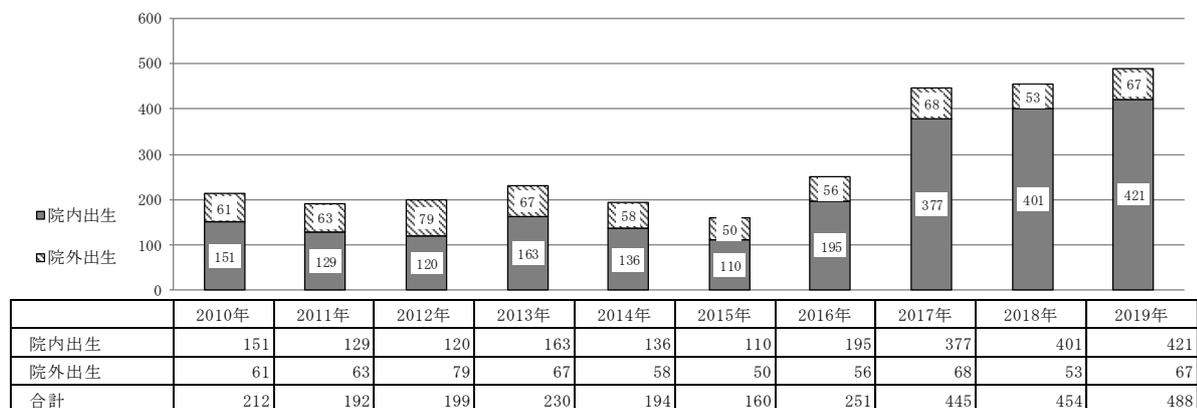
MFICU の入院適応については大きな変化がないが、産後出血がやや少なかった。ただし胎盤遺残・血腫は「その他」に含まれるので、輸血を必要とするような例が減ったわけではない。また、合併症妊娠の管理例が 2018 年に続き多く入院している。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産(入院のみ)	99	81	82	89	66	63	56	78	69	88
妊娠高血圧症候群	30	35	31	24	16	14	21	26	22	38
産後出血	14	23	20	18	25	11	18	28	18	12
常位胎盤早期剥離	5	19	8	11	13	11	9	6	12	6
胎内胎児発育不全（胎内診断のみ）	18	15	19	12	2	8	10	5	9	1
前置胎盤	17	14	11	13	8	10	8	16	2	12
双胎	8	7	4	15	10	6	8	6	10	5
HELLP症候群	3	5	8	4	4	4	3	4	4	3
先天異常	4	2	3	5	6	2	3	1	8	4
肺水腫	3	2	3	3	-	-	2	1	0	1
合併症妊娠	20	25	36	18	5	6	5	7	20	29
その他	5	3	3	3	-	17	12	14	8	16

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2019年の総入院数は488例(再入院5例を除く)で、院内出生は421例、院外出生は67例であった。2016年9月の病棟移転による病床数増加に伴い、入院数は著明に増加した。



◆ 入院時疾患名 (例)

病棟移転に伴い、産科の新生児入院病床が無くなり、1,800~2,300gの低出生体重児、黄疸の光線治療、低血糖や哺乳不良などの点滴治療、母体精神疾患や内分泌異常の母体から出生した児のモニタリング目的の入院が増加した。

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
心・循環器疾患	10	5	13	19	15	18
動脈管開存症	-	-	-	4	-	-
大動脈肺動脈窓	-	-	-	-	-	-
左心低形成	1	-	-	-	1	-
左室緻密化障害	1	-	-	-	-	-
WPW症候群	-	-	-	-	-	-
不整脈	-	-	1	6	1	2
VSD ASD	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄症	2	1	1	1	1	1
大動脈離断	-	-	-	1	-	-
右大動脈弓	-	-	-	1	-	2
FalLOT四徴症	2	-	1	1	-	2
心室中隔欠損症	1	-	2	2	1	2
先天性動脈管開存症	1	1	-	-	-	-
総動脈管症	-	-	-	1	-	-
総肺静脈還流異常症	-	-	1	-	1	-
両大血管右室起始	1	-	2	-	2	-
完全大血管転位	-	-	1	2	3	1
心房粗動	1	-	-	-	-	-
Ebstein奇形	-	-	2	-	1	-
血管輪	-	2	-	-	-	-
右側相同	-	1	-	-	-	-
左側相同	-	-	1	-	-	-
内臓逆位	-	-	1	-	-	-
肺動脈閉鎖	-	-	-	-	1	1
肺動脈弁狭窄症	-	-	-	-	-	1
末梢性チアノーゼ	-	-	-	-	-	1
重複大動脈弓	-	-	-	-	1	-
修正大血管転位	-	-	-	-	1	-
動脈管瘤	-	-	-	-	-	3
先天性心疾患の疑い	-	-	-	-	1	-
房室中隔欠損症	-	-	-	-	1	-
動脈管早期閉鎖	-	-	-	-	1	-
新生児遷延性肺高血圧	-	-	-	-	-	1
左肺動脈欠損	-	-	-	-	-	1
肺高血圧症	-	-	-	-	1	-
その他	-	-	-	2	-	-
脳・神経疾患	12	3	8	6	12	8
脳梗塞	-	-	-	-	1	-
髄膜瘤	1	2	1	-	1	-
脳室拡大	-	-	-	-	-	-
帽状腱膜下血腫	-	1	1	-	3	2
新生児痙攣	-	-	3	2	5	2
筋緊張性ジストロフィー	-	-	-	-	-	-
硬膜下血腫	3	-	-	-	-	-
脊髄脂肪腫	2	-	-	-	-	-
てんかん	2	-	-	-	1	-
脈絡叢乳頭癌	1	-	-	-	-	-
脳梁欠損症	1	-	-	-	1	-
水頭症	1	-	3	2	-	-
脳嚢胞	-	-	-	1	-	-
頭蓋骨早期癒合症	-	-	-	1	-	-
脊髄髄膜瘤	-	-	-	-	-	1
頭蓋内出血(尾状核出血)	-	-	-	-	-	1
先天性水頭症	-	-	-	-	-	2
Dandy-Walker症候群	1	-	-	-	-	-
けいれん発作	1	-	-	-	-	-

次ページへつづく

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	40	38	28	61	53	74
新生児一過性多呼吸	22	20	15	44	37	49
呼吸窮迫症候群	4	4	-	2	1	1
胎便吸引症候群	1	1	6	1	1	11
新生児無呼吸発作	5	4	1	6	8	7
気胸	3	3	4	5	3	4
喉頭軟化症	-	-	-	-	-	2
先天性横隔膜ヘルニア	2	3	-	1	-	-
先天性乳び胸	-	1	1	-	-	-
披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	-	-	-	1	-	-
出血性肺浮腫	2	1	1	-	-	-
肺リンパ嚢胞	1	-	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	-	-	1	-	-
胸水	-	-	-	-	1	-
先天性肺気道奇形	-	-	-	-	1	-
先天性嚢胞性肺腫性奇形	-	-	-	-	1	-
間質性肺炎	-	1	-	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	9	12	17	17	19	12
ダウン症候群	2	3	6	7	11	3
18トリソミー	-	1	-	3	4	2
13トリソミー	-	-	2	-	-	1
5p-症候群	-	-	1	-	-	-
22q11.2症候群	-	-	1	-	-	-
10番染色体不均衡転座	-	-	1	-	-	-
口唇口蓋裂	1	1	-	1	-	2
上顎体	-	-	-	-	-	1
先天性魚鱗癬症候群	-	-	-	-	-	1
Beals症候群	-	-	-	-	-	1
GREI(cephalopolysyndactyly syndrome)	-	-	-	-	-	-
Jarcot-Levine syndrome	-	-	-	-	-	-
Juberg-Hayward syndrome	-	-	-	-	-	-
Prader-Willi症候群	1	1	1	-	-	-
コステロ症候群	-	1	-	-	-	-
noonan症候群	-	1	-	-	-	-
タウンスブロックス症候群	-	-	1	-	-	-
VACTERL連合	-	-	-	1	-	-
奇形症候群	-	-	-	-	-	-
仙骨部皮膚洞	-	-	-	-	-	-
傍尿道のう腫	-	-	-	-	-	-
結節性硬化症	1	-	-	-	-	-
尿道下裂	1	1	-	-	-	-
低形成異形成腎	1	-	-	-	-	-
多嚢胞性異形成腎	-	-	2	1	-	-
仙尾部奇形腫	1	-	-	1	-	-
タナトフォリック骨異形成症	-	1	-	1	-	-
小顎症	-	1	1	1	-	-
尿管管遺残症	-	1	-	-	-	-
陰核肥大	-	-	1	-	-	-
重複陰	-	-	-	1	-	-
先天性頭皮欠損	-	-	-	-	1	-
頭部嚢胞	-	-	-	-	1	-
反張膝	1	-	-	-	1	1
多嚢胞性腎異形成	-	-	-	-	1	-
感染症	2	3	4	12	8	16
新生児感染症	2	-	2	10	7	13
新生児TSS様発疹症	-	1	-	-	-	1
先天性サイトメガロウイルス感染症	-	1	2	2	1	-
先天性トキソプラズマ感染症	-	-	-	-	-	1
水痘疑い	-	-	-	-	-	1
細菌性髄膜炎	-	1	-	-	-	-

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
消化管疾患	20	7	10	9	11	23
新生児嘔吐症	9	1	2	2	1	5
哺乳不良	-	-	1	1	2	6
腸回転異常症	1	-	1	-	-	1
鎖肛	2	1	-	1	1	-
腸管拡張	-	-	-	-	-	1
肝嚢胞	-	-	-	-	-	1
新生児メレナ	1	2	-	-	1	-
Hirschsprung病	2	2	-	-	-	-
腹壁破裂	1	-	1	-	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	2	1	-	-
臍尿管	1	-	-	-	-	-
肛門異所性開口	1	-	-	-	-	-
血便	-	-	-	-	-	-
胃軸捻転	1	-	-	-	-	1
急性胃粘膜病変	1	-	-	1	2	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-
小腸十二指腸閉鎖	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	1	2	1	1	2
十二指腸狭窄症	-	-	-	-	-	1
結腸閉鎖	-	-	-	1	-	-
小腸軸捻転	-	-	-	-	1	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1	2
先天性胆道拡張症	-	-	-	-	1	-
先天性食道閉鎖	-	-	-	-	-	1
胃食道逆流	-	-	-	1	-	-
ヒルシュスプルング病	-	-	-	-	-	2
ミルクアレルギー	-	1	-	-	-	-
代謝内分泌	2	2	6	37	25	13
低血糖	-	2	3	21	18	11
先天性甲状腺機能低下症	1	-	2	9	1	-
新生児一過性甲状腺機能亢進症	-	-	1	7	3	1
ホモシチン尿症	1	-	-	-	1	-
プロピオン酸血症	-	-	-	-	1	-
遠位尿管管性アシドーシス	-	-	-	-	1	-
Smith-Lemli-Opitz 症候群	-	-	-	-	-	1
その他	94	87	159	277	302	324
低出生体重児 (1,500-2,499g)	33	38	70	126	122	128
極低出生体重児 (1,000-1,499g)	23	11	24	21	18	12
超低出生体重児 (<1,000g)	22	20	19	18	22	15
早産児	1	-	-	7	7	6
新生児仮死	8	8	15	7	8	15
sleeping baby	-	2	1	-	-	3
新生児高ビリルビン血症	5	-	17	70	89	107
新生児肺炎	-	1	-	-	-	-
リンパ管腫	-	1	-	1	-	-
ランゲルハンス細胞組織球症	-	-	-	1	-	-
胎児母体間輸血症候群	1	-	-	-	-	-
血友病Bの疑い	-	-	-	-	-	-
Upshaw-Schulman症候群	1	-	-	-	-	-
高インスリン性低血糖	-	1	-	-	-	-
多血症	-	-	-	4	2	1
ABO血液型不適合	-	2	-	-	2	2
Rh不適合	-	-	-	-	-	1
その他の血液型不適合	-	-	-	-	-	1
先天性血管拡張性大理石様皮斑	-	1	-	-	-	-
左耳出血	-	-	-	1	-	-
新生児薬物離脱症候群	-	-	8	18	24	27
墜落分娩	-	1	4	3	5	3
遺伝性球状赤血球症	-	1	1	-	1	-
卵巣出血	-	-	-	-	1	-
両下鼻甲粘膜炎	-	-	-	-	-	1
未熟網膜症	-	-	-	-	-	1
分娩麻痺疑い	-	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫	-	-	-	-	1	-

◆ 出生週数（例）

28 週未満の入院は 11 例とやや減少、36 週以上の入院は 369 例と 2016 年の移転後、増加している。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
22週	1	-	-	-	2	1	3	1	1	1
23週	-	1	3	3	2	1	2	2	-	-
24週	3	2	-	3	4	6	3	3	2	3
25週	-	2	2	4	3	1	2	2	2	1
26週	6	1	-	2	5	1	3	6	4	1
27週	3	2	5	2	4	3	2	5	7	5
28週	8	6	5	6	6	7	5	1	3	-
29週	8	3	7	5	4	2	6	-	5	3
30週	4	5	3	7	3	4	5	5	10	7
31週	9	16	6	5	8	6	7	13	6	3
32週	13	13	9	18	8	8	10	16	8	8
33週	20	10	15	27	15	10	8	11	13	14
34週	22	15	24	28	8	11	22	24	19	32
35週	10	15	9	17	13	14	12	32	35	40
36週	9	14	18	14	15	13	20	39	38	46
37週以上	95	87	93	84	89	70	135	280	292	323
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1

(※2019 年不明 1 例は、未受診妊婦のため週数不明)

◆ 出生時体重（例）

1,500g 未満の極低出生体重児の入院数は 30 例とやや減少、1,500～2,500g の低出生体重児は 160 例とほぼ横ばいであった。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	2	-	3	-	5	1	3	3	3	2
500-749g	7	5	4	10	9	10	8	9	7	2
750-999g	6	7	10	13	8	9	9	6	11	13
1,000-1,249g	12	8	9	12	7	3	9	7	6	5
1,250-1,499g	13	18	10	16	16	10	15	15	13	8
1,500-1,749g	30	24	18	21	14	14	14	20	15	18
1,750-1,999g	33	19	23	33	14	18	26	34	42	35
2,000-2,249g	15	21	18	21	10	16	24	53	55	57
2,250-2,499g	20	15	22	26	21	15	31	53	53	50
2,500g以上	74	75	82	73	85	62	106	240	243	298

◆ 人工呼吸器管理

入院数の増加に伴い人工呼吸器管理症例率は低値であるが、人工呼吸器管理症例数は 113 例と多い。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院数（例）	212	192	199	230	194	160	251	440	448	488
人工呼吸器管理症例数（例）	105	85	97	99	105	91	94	101	116	113
人工呼吸器管理症例率（％）	49.5	44.3	48.7	43.0	54.1	56.9	37.5	23.0	25.9	23.2

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

手術症例は 33 例で、心臓血管外科、消化器外科、脳神経外科症例がそれぞれ約 10 症例ずつあった。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	22週	400g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	25週	584g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	24週	716g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	33週	810g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管クリッピング術
男	27週	862g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	26週	926g	超低出生体重児 出血後水頭症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ レーザー光凝固術
男	27週	990g	超低出生体重児	PIカテーテル切開除去
男	34週	1,288g	Smith-Lemli-Opitz 症候群 心室中隔欠損症 動脈管開存症	肺動脈絞扼術+動脈管クリッピング術
女	37週	1,534g	大動脈縮窄症	大動脈縮窄修復術+卵円孔閉鎖術
男	30週	1,556g	動脈管開存症	動脈管クリッピング術
男	29週	1,568g	緊張性気胸 出血後水頭症	胸腔ドレナージ 脳室外ドレナージ
男	34週	1,992g	内反足	アキレス腱切離
女	34週	2,106g	上顎体	気管切開術
男	35週	2,290g	先天性食道閉鎖 心室中隔欠損症	食道吻合術 心室中隔欠損閉鎖術
女	37週	2,445g	左肺動脈欠損	左肺動脈再建術
女	37週	2,552g	喉頭軟化症 関節拘縮	気管切開術
女	36週	2,558g	腸回転異常症	十二指腸吻合術+ラッド術
女	39週	2,650g	十二指腸狭窄（膜様閉鎖）	膜切開術
女	41週	2,688g	幽門閉鎖症	幽門形成術
男	37週	2,710g	髄膜瘤	髄膜瘤修復術
男	36週	2,780g	先天性水頭症	脳室外ドレナージ
男	36週	2,790g	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
女	36週	2,868g	先天性小腸閉鎖 腸重積症	小腸吻合術 腸重積修復術
男	41週	2,928g	胎便吸引症候群 緊張性気胸	胸腔ドレナージ
女	38週	2,956g	先天性横隔膜ヘルニア	ヘルニア修復術
男	39週	3,010g	硬膜下血腫	硬膜下血腫除去術
男	41週	3,080g	頭蓋内出血（尾状核出血）	脳室外ドレナージ 血腫除去術
男	38週	3,264g	先天性水頭症	脳室外ドレナージ 脳室腹腔内シヤント術
男	38週	3,286g	新生児仮死 硬膜下血腫	硬膜下血腫除去術
男	35週	3,329g	小腸閉鎖	小腸吻合術
男	41週	3,494g	左心低形成	Norwood術
男	40週	3,568g	肺動脈弁狭窄症	肺動脈弁拡張術
男	39週	3,746g	大血管転位	Jatene術

◆ 血液浄化症例

血液浄化症例は母児間輸血症候群による全血交換輸血が 2 例、DIC が 1 例、重症黄疸による全血交換輸血が 1 例、多血の部分交換が 1 例であった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
38週6日	3,176g	新生児仮死 母児間輸血症候群	全血交換輸血
38週0日	3,286g	新生児仮死 DIC	全血交換輸血 血液濾過透析 腹膜透析
37週5日	2,782g	黄疸	全血交換輸血
39週4日	3,562g	新生児仮死 母児間輸血症候群	全血交換輸血
36週6日	2,510g	多血症	部分交換輸血

◆ 出生週数別の日齢 28 日以後の生存数（例）

出生週数 22 週～28 週の生存率は 100%であった。

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
22週	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	0.0（0 / 1）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）
23週	100.0（2 / 2）	0.0（0 / 1）	50.0（1 / 2）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）
24週	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）
25週	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
26週	80.0（4 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	75.0（3 / 4）	100.0（1 / 1）
27週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	50.0（1 / 2）	80.0（4 / 5）	100.0（7 / 7）	100.0（5 / 5）
28週	83.3（5 / 6）	85.7（6 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	-（- / -）
29週	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（6 / 6）	-（- / -）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）
30週	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）
31週	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（7 / 7）	100.0（13 / 13）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）
32週	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）	90.0（9 / 10）	93.8（15 / 16）	87.5（7 / 8）	100.0（8 / 8）
33週	100.0（15 / 15）	100.0（10 / 10）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）
34週	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100.0（22 / 22）	100.0（24 / 24）	100.0（19 / 19）	96.9（31 / 32）
35週	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）	100.0（32 / 32）	100.0（35 / 35）	100.0（40 / 40）
36週	100.0（15 / 15）	92.3（12 / 13）	100.0（20 / 20）	100.0（39 / 39）	97.4（37 / 38）	100.0（46 / 46）
37週以上	98.9（88 / 89）	98.6（69 / 70）	100.0（135 / 135）	99.6（279 / 280）	100.0（292 / 292）	100.0（323 / 323）
不明	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢 28 日以後の生存数（例）

出生体重 1,500g 未満の生存率は 100%であった。

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
500g未満	60.0（3 / 5）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	66.7（2 / 3）	66.7（2 / 3）	100.0（2 / 2）
500-749g	100.0（9 / 9）	80.0（8 / 10）	87.5（7 / 8）	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（2 / 2）
750-999g	100.0（8 / 8）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）	100.0（11 / 11）	100.0（13 / 13）
1,000-1,249g	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（6 / 6）	100.0（5 / 5）
1,250-1,499g	100.0（16 / 16）	100.0（10 / 10）	93.3（14 / 15）	93.3（14 / 15）	100.0（13 / 13）	100.0（8 / 8）
1,500-1,749g	100.0（14 / 14）	92.9（13 / 14）	100.0（14 / 14）	100.0（20 / 20）	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）
1,750-1,999g	100.0（14 / 14）	100.0（18 / 18）	100.0（26 / 26）	100.0（34 / 34）	100.0（42 / 42）	100.0（35 / 35）
2,000-2,249g	100.0（10 / 10）	100.0（16 / 16）	100.0（24 / 24）	100.0（53 / 53）	100.0（55 / 55）	98.2（56 / 57）
2,250-2,499g	95.2（20 / 21）	100.0（15 / 15）	100.0（31 / 31）	98.1（52 / 53）	100.0（53 / 53）	100.0（50 / 50）
2,500g以上	100.0（85 / 85）	98.4（61 / 62）	100.0（106 / 106）	100.0（240 / 240）	99.2（241 / 243）	100.0（298 / 298）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3	4	4	3	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	1	1	-	-	-

◆ 死亡例一覧

死亡例は 3 例で、早期死亡は上顎体による呼吸不全 1 例であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	34週0日	1,288g	138日	Smith-Lemli-Opitz 症候群
女	34週6日	2,106g	0日	上顎体
男	38週6日	2,874g	41日	肺動脈閉鎖 右室低形成 冠動脈起始異常

◆ 新生児搬送収容数（例）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新生児搬送収容数	45	62	65	57	48	45	40	51	48	64

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	
内訳	呼吸器疾患	18	18	17	25	17	24	
	呼吸障害	17	18	17	25	10	-	
	新生児一過性多呼吸	-	-	-	-	-	22	
	新生児無呼吸発作	1	-	-	-	6	2	
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	-	-	-	1	-	
心・循環器疾患		3	3	7	11	12	6	
内訳	心疾患	-	1	6	-	-	-	
	先天性心疾患	-	-	-	1	8	6	
	心雑音	1	1	1	-	1	-	
	心不全	1	-	-	-	-	-	
	心奇形	1	1	-	1	-	-	
	心奇形疑い	-	-	-	1	-	-	
	不整脈	-	-	-	1	-	-	
	動脈管開存症	-	-	-	5	1	-	
	総肺静脈環流異常	-	-	-	1	-	-	
	肺高血圧症	-	-	-	-	1	-	
	上室性頻拍	-	-	-	1	1	-	
	消化管疾患		9	11	1	5	1	14
	内訳	新生児嘔吐症	2	2	-	-	-	7
胆汁性嘔吐		1	-	1	-	-	-	
血便		2	3	-	-	-	-	
鎮肛		2	1	-	1	1	-	
尿道下裂		1	1	-	-	-	-	
肛門部奇形		1	-	-	-	-	-	
腹部膨満		-	2	-	1	-	-	
腹部腫瘍		-	-	-	2	-	-	
哺乳不良		-	2	-	-	-	7	
血性嘔吐		-	-	-	1	-	-	
脳・神経疾患		3	2	1	1	7	2	
内訳	脊髄髄膜瘤	2	-	-	-	-	-	
	けいれん発作	1	1	1	-	6	2	
	帽状腱膜下血腫	-	1	-	-	1	-	
	脳梗塞	-	-	-	1	-	-	

		2014	2015	2016	2017	2018	2019
染色体異常 奇形症候群		2	3	4	3	5	1
内訳	ダウン症	1	1	2	2	-	-
	染色体異常	-	-	-	-	5	1
	奇形（症候群）	-	1	2	-	-	-
	口唇口蓋裂	-	1	-	1	-	-
	反跳膝	-	-	-	-	-	-
感染症		-	3	1	3	4	7
内訳	感染症	-	3	1	2	3	7
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	1	-
	梅毒疑い	-	-	-	1	-	-
その他		14	14	6	11	9	21
内訳	低出生体重児	1	3	-	-	2	2
	超低出生体重児	-	-	-	-	-	1
	未熟児網膜症	-	-	-	-	-	1
	新生児仮死	3	4	4	3	4	4
	魚鱗癬	-	-	1	-	-	-
	黄疸	5	1	1	-	2	3
	甲状腺機能異常	1	-	-	-	-	-
	チアノーゼ	2	2	-	3	-	1
	インフルエンザ疑い	1	-	-	-	-	-
	多血	-	-	-	1	-	-
	下肢浮腫	1	-	-	-	-	-
	上腕骨骨折	-	-	-	1	-	-
	骨折	-	-	-	-	-	2
	関節拘縮	-	-	-	-	-	1
	帽状腱膜下血腫	-	-	-	-	-	1
	分娩麻痺の疑い	-	-	-	-	-	1
	耳出血	-	-	-	1	-	-
	吐血	-	1	-	-	-	-
	性分化異常	-	1	-	-	-	-
	臀部腫瘍	-	1	-	-	-	-
	皮疹	-	-	-	1	-	-
墜落産	-	-	-	1	-	3	
反跳膝	-	-	-	-	1	1	
臍帯ヘルニア疑い	-	1	-	-	-	-	

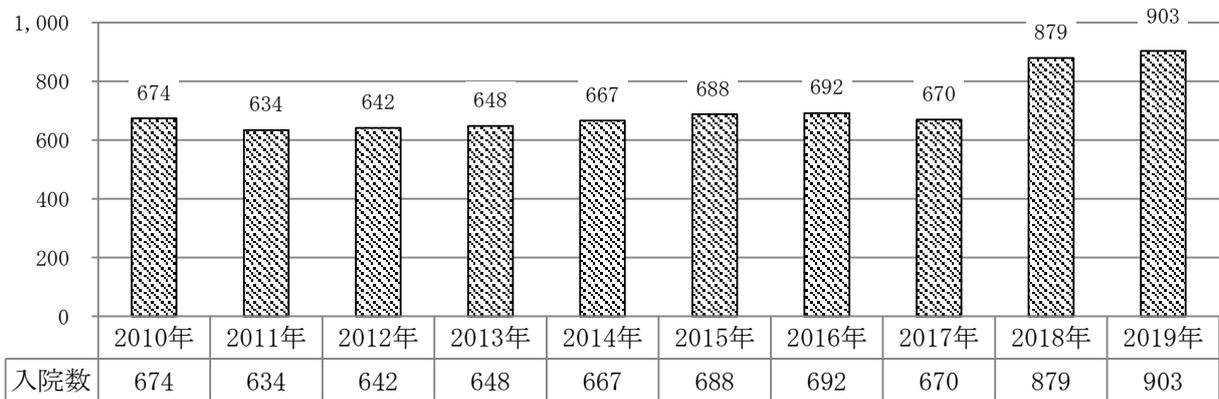
3. 奈良県総合医療センター

(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数（例）

入院患者数は搬送や紹介症例の増加から、2011年以降やや増加傾向にある。産科病棟では緊急入院の受け入れおよび重症患者の増加による平均在院日数の延長を考慮し、2015年7月に病床数を26床から30床に増床した。しかし2018年の新センター移転後に分娩患者数が増加し、一時的に病棟が満床のため搬送受け入れが困難になることがあった。適正な分娩予約数について検討を行っている。2019年は分娩数もさらに増加し、入院数も更なる増加となった。

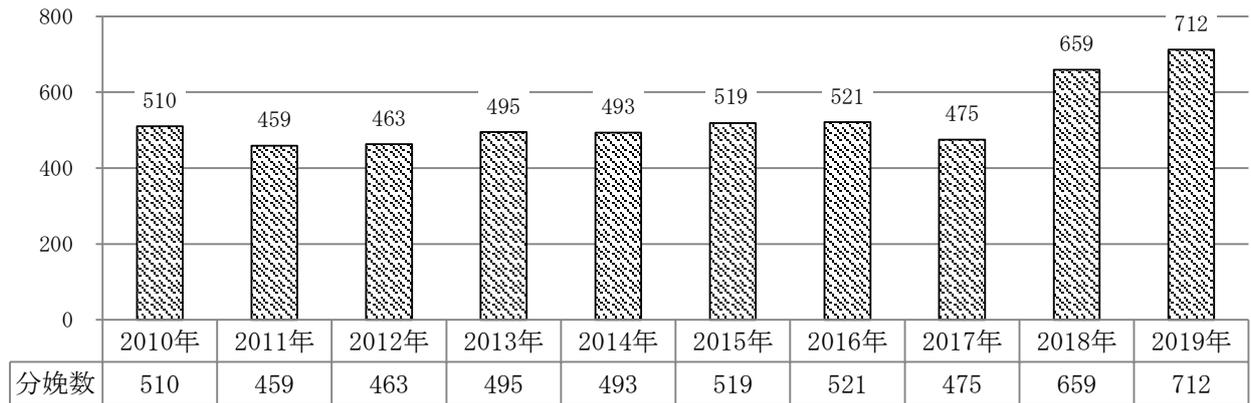
切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、前医での受け入れが可能となる週数まで入院管理ができた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



◆ 分娩数（例）

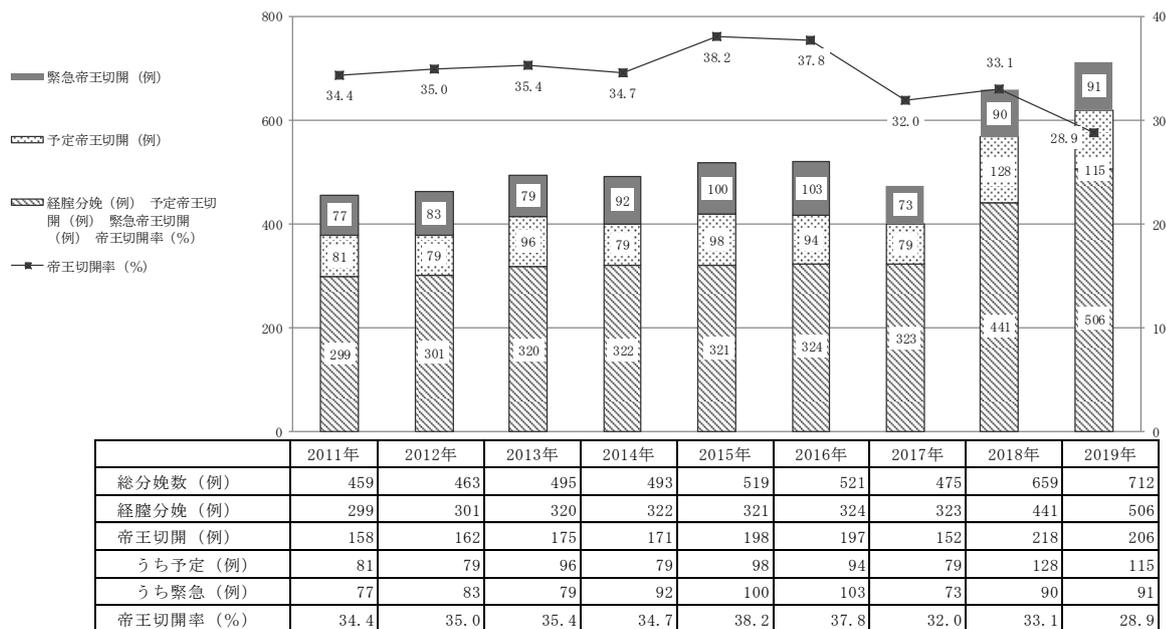
周産期センターとしての役割を考慮し、緊急やハイリスク患者への対応能力を維持する目的で分娩制限を設けている。2010年から10例/週としていたが分娩枠に余裕があることが多く、2017年までは搬送患者等の分娩も合算して約9.5件/週の分娩数であった。2018年5月に新センターに移転してから分娩予約数は12件/週に変更した。予約枠が埋まった場合、ハイリスク患者については予約数を超えても受け入れる方針としているが、ローリスク妊婦については他施設を紹介している。2019年は西和医療センターとの分娩統合により西和医療センターで妊婦健診を受け当院で分娩する患者が約50例あった。そのため、前年度に比し分娩数は増加している。なお、西和医療センターで管理する妊婦は基本的にローリスク症例であるが、現時点では当院での分娩予約枠にはカウントしていない。

施設の役割に応じた患者の配分を考慮しハイリスク妊婦の状態改善や妊娠36週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っている。分娩数とスタッフの人的要因や病床稼働率等を考慮し、分娩予約枠は変更する可能性がある。



◆ 分娩様式

2019年の分娩様式は例年と大きな変化はない。当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開としているが、分娩予約においてはローリスク妊娠として扱っている。当院はハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いてきたため帝王切開率は35%前後で経過していたが、2019年の帝王切開率は28.9%と低下した。帝王切開症例数自体は昨年と著変なく、西和医療センターからの症例の多くが自然経膈分娩で出生していることが帝王切開率の低下につながった可能性がある。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降かつ児推定体重1000g以上を、奈良医大ではそれ以前や胎児奇形などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、県内2施設のみでの周産期母子医療センターの役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。妊娠38週がピークとなり、児の未熟性を考慮した分娩時期の設定が行われていると推測される。さらに過期産を回避する方針で妊娠管理基準を修正し、2015年以降の過期産はほぼゼロとなった。2017年の1件は未受診妊婦の飛び込み分娩であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	1
25週	-	1	-	-	-	-	-	-	-
26週	1	-	-	2	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-	-	-
28週	-	2	2	2	4	2	3	1	3
29週	2	4	2	2	1	1	-	3	4
30週	3	5	6	4	4	5	2	8	2
31週	8	5	7	4	8	7	8	9	7
32週	8	4	11	10	10	12	4	5	7
33週	10	9	9	11	14	18	15	11	9
34週	13	18	18	22	21	24	21	24	25
35週	16	20	17	28	28	32	26	39	22
36週	27	23	29	23	43	40	24	35	30
37週	63	65	101	111	114	125	107	115	122
38週	96	108	91	73	101	96	96	159	168
39週	95	98	86	116	81	101	90	120	139
40週	85	67	85	86	83	69	76	122	152
41週	28	32	29	27	32	23	19	48	51
42週	1	2	2	6	-	-	1	-	-
不明	3	-	-	1	-	-	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1000g未満の分娩は年間数例で推移している。1500g未満の極低出生体重児の割合は16例（2.2%）であり、割合は例年と同様であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500-999g	1	2	2	3	2	3	-	1	1
1,000-1,499g	13	15	15	14	15	11	15	17	15
1,500-1,999g	32	34	25	43	44	58	35	39	37
2,000-2,499g	87	79	87	91	110	114	87	120	99
2,500g以上	355	331	394	377	374	370	355	522	590
不明	4	-	-	-	-	1	-	-	-

◆ 出産時年齢（例）

2019年の分娩妊婦712例のうち35歳以上は284例（39.9%）であり、おおむね横ばいである。しかし45歳以上の超高齢妊婦数は増加傾向を認めている。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	285	281	273	305	303	280	379	428
35-39歳	144	158	165	163	151	141	209	217
40-44歳	32	55	52	50	63	47	70	62
45歳以上	2	1	3	1	4	3	1	5

◆ 合併症妊娠（例）

日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出した症例数であるので、喘息や子宮筋腫核出術後などのデータベースに含まれない項目は当院で独自に集計している。今後この周産期年報における表示項目については再検討する必要がある。子宮筋腫および子宮筋腫核出術後、子宮頸癌（含円錐切除後）、糖尿病（含むGDM）の合併症妊娠数は増加しているが、割合はおおむね横ばいであるため高齢妊娠数や分娩総数増加の影響が考えられる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	-	-	36	33	29	42	32	53	34
子宮筋腫（核出術後）	27	13	-	10	14	16	8	18	14
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	2	4	5	9	5	6	8	12
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	-	3	8	10	9	4	14	16
子宮奇形	4	4	4	1	6	1	2	6	3
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6	12	8	15	9
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9	14	28	23	25
糖尿病（含GDM）	23	11	20	27	27	29	32	43	50
喘息	14	3	-	-	11	9	10	13	12
慢性腎炎	5	-	3	2	4	0	4	3	4
本態性高血圧	3	1	1	7	4	5	2	5	7
ITP	-	-	-	-	-	-	-	4	2
自己免疫疾患	3	1	8	12	2	5	2	7	4
循環器疾患	4	1	3	2	7	-	8	4	-
精神科疾患（含てんかん）	14	4	14	33	24	20	34	36	41
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	3	-	1	2	7	-	2	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	7	-	2	4	4	8	2	4	3
その他	11	-	-	-	-	-	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症は切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症の症例数は年ごとに多少の増減はあるものの傾向的ではない。2012年から2014年までの弛緩出血の症例数が目立って多い。これは産後2時間までの出血量を500g以上とする、いわゆる分娩時多量出血の定義をもとに集計した結果である。産褥期の出血によりバイタルサイン異常を呈した例数を意味するものではない。2019年より、本統計で弛緩出血を羊水込み800ml以上と定義したため、症例数の増減については前年までと比較できるものではない。当院では新生児外科疾患への対応は困難であるため、消化器異常や先天性心奇形などを推測した場合は大学病院などに母体搬送している。したがって当院で分娩まで管理した先天異常の症例数は少ない。なお、産科合併症の集計数は当院で分娩に至った症例のみに基づく結果であり、入院・外来管理後にローリスクと判断し、紹介元医療機関へ逆紹介した症例や、ローリスク・ハイリスクにかかわらず他院へ紹介・転送した症例は含まれていないことに留意されたい。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	128	111	219	147	168	189	140	182	149
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58	57	36	37	50
胎内胎児発育制限	21	5	13	14	35	39	28	35	35
多胎妊娠	34	31	30	36	34	41	24	44	37
前置胎盤	12	9	12	11	7	15	8	12	15
産後出血	-	-	-	-	-	-	-	-	11
子癇	-	5	4	2	1	-	-	1	2
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	15	97	282	136	56	62	50	21	188
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8	7	6	5	5
HELLP症候群	1	3	1	-	1	2	1	1	2
低置胎盤	-	-	5	1	5	4	4	4	2
血液型不適合	-	-	6	4	6	8	8	9	10
羊水過多	-	-	-	1	-	2	2	3	6
羊水過小	-	-	2	3	7	3	2	3	6
先天異常	-	-	-	-	-	4	3	1	3
その他	199	-	-	-	-	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

2019年の頸管縫縮術は9例に施行した。本統計は日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出した症例数であるので、当院で分娩した症例のみを抽出している。当院で分娩した症例で子宮動脈塞栓術を行ったものはなかったが、産後出血での搬送症例では適応したものがある。胎児手術や羊水除去は当センターでは以前から行っていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6	1	3	2	9
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	2	12	2	2	2	3	2	1
産道血腫除去術	1	1	-	1	-	3	-	2	1
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3	-	-	-	-
子宮摘出術	3	-	1	1	-	-	1	-	-
その他	22	-	-	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2019年は当院での分娩症例の9例に輸血を要した。産後出血での搬送症例は含まれていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33	25	24	12	9

◆ NICU 収容症例数（例）

近年 NICU 収容新生児数は 25%程度であったが、2017 年以降は 22%、2019 年は 19%であった。専門的治療が行われることは好ましい状況であると考えますが、NICU 収容基準の変化、ハイリスク妊娠の増加、分娩週数の低下など、NICU 収容新生児数の増加に影響する因子を解析し、NICU 病床のより適切な運用を目指す必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141	147	110	155	141

◆ 多胎妊娠（例）

2019年の多胎妊娠は37例で、前年とおおむね変化はなかった。三胎妊娠は早産リスクや早産となった場合のNICU占拠数と入院期間の問題から当院では取り扱っておらず、奈良医大に紹介としている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
双胎	34	31	30	37	34	41	24	44	37
うちMD	9	11	11	16	10	18	9	20	18
うちDD	25	20	19	21	24	23	15	24	19

◆ 母体搬送収容数（例）

県内の母体搬送数の増加とともに当院での受け入れ数も増加し、2011年には100例を超え、2017年は150例を超えた。2018年は155例で、県内搬送依頼数の過半数であった。2019年は搬送受け入れ数は132件とやや減少したが、受け入れ困難で断った症例も非常に少なかった。奈良医大での受け入れ数の増加もあり、搬送依頼数自体の減少が考えられる。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
母体搬送収容数	60	63	106	100	105	141	147	148	151	155	132

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）

母体・産褥搬送となった疾患名に大きな変動はなかった。切迫早産や前期破水が大半を占める。胎児奇形の疑いで搬送依頼があった際には、当院NICUでの対応は困難であることから奈良医大・近大奈良あるいは大阪府内の新生児外科で対応可能な病院への搬送を依頼している。妊娠高血圧症候群、産後出血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、HELLP症候群などの重篤例や産後出血についての搬送数は例年と著変なかった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産(入院のみ)・前期破水(早産期)	56	62	74	84	97	94	87	101	77
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19	16	11	16	9
胎内胎児発育制限	8	5	2	1	1	4	1	-	-
産後出血	10	8	2	20	8	11	17	6	14
胎児機能不全	5	4	1	2	2	3	9	3	-
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3	3	2	4	5
前置胎盤	2	5	2	1	2	2	2	6	5
多胎	-	-	1	4	-	-	-	0	-
HELLP症候群	-	3	1	2	-	1	2	1	3
胎児奇形	-	-	-	-	-	-	1	-	-
帝王切開合併症	-	-	-	-	-	-	2	-	-
未受診	-	-	-	-	-	-	2	-	2
その他	18	12	28	12	15	14	15	18	17

◆ 先天異常(例 重複あり)

今回の集計は分娩統計のデータからだしているため、当院で分娩に至った症例のみに限定されている。流産域での診断や中絶に至った症例、外来管理のみ行った症例、外科疾患や心疾患など出生後に当院での対応困難で他院紹介とした症例についてはすべて省かれていることに留意されたい。

疾患名	2019年	
	症例数	胎内診断
獣皮様母斑	-	1
多指症	-	2
水腎症	1	1
potter症候群	1	1
ターナー症候群	1	1
Beckwith wiedmann症候群	1	1
21trisomy	-	1
骨系統疾患	1	1

◆ MFICU 入院患者数(例)

MFICU としての機能を備えた病室は周産期センター内に3床備えているが、現在、保険診療上のMFICUとして稼働していない。現時点では、搬送直後の症例および重症であり周産期センターで管理すべき症例のほかにも、産科病棟が満床の場合の個室として使用する場や帝王切開術後の回復病床として使用するなど流動的な扱いとなっている。今回は、当該病床に入院した人数をカウントし標記しているが、下記の通り、その患者数と重症度は必ずしもMFICUの適応に準じているわけではないことに留意されたい。

	2019年
院内症例	244
搬送症例	119
合計	363

◆ MFICU 入院適応(例)

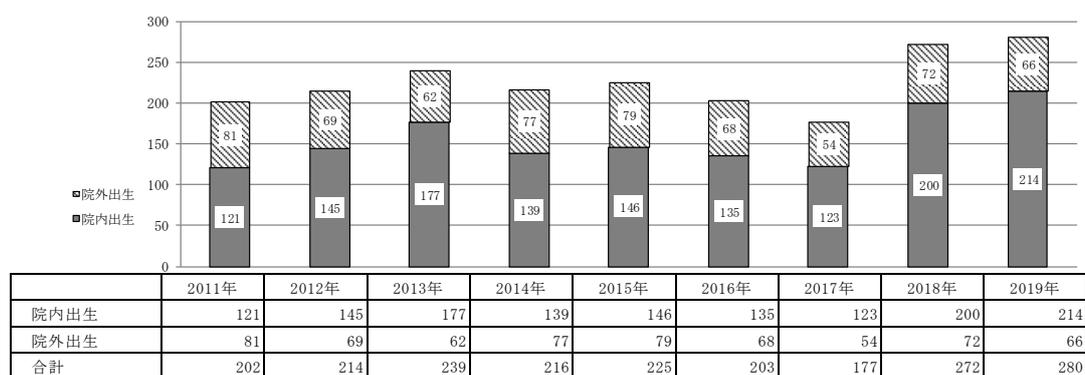
その他にあたる症例の多くは、帝王切開術後の回復病床として入室した例および産科病棟の個室が満床であった場合に個室を希望する患者に対応するために入室させた例である。

	2019年
切迫早産(入院のみ)	110
妊娠高血圧症候群	13
産後出血	12
常位胎盤早期剥離	3
胎内胎児発育不全(胎内診断のみ)	5
前置胎盤	10
双胎	10
HELLP症候群	4
胎児異常	7
合併症妊娠	7
その他	182

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

入院数 280 名の内、同患者で退院から再入院、転院から当院へ転院した患者が 7 人、また GCU のみ入院の患者も入院数に含む。



◆ 入院時疾患名 (例)

		2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患		70	146	101	77	100	91
内訳	新生児呼吸障害	4	-	12	1	-	-
	新生児一過性多呼吸	34	82	55	52	74	63
	重症新生児無呼吸発作	-	-	-	-	-	6
	新生児無呼吸発作	17	8	6	6	12	1
	新生児呼吸窮迫症候群	5	46	18	11	5	11
	胎便吸引症候群	5	4	3	2	5	6
	喉頭軟化症 (疑い含む)	2	-	-	-	-	1
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	1	1	-	1	-
	新生児慢性肺疾患	1	-	-	-	-	3
	新生児肺出血	1	4	5	2	-	-
	誤嚥性肺炎	-	1	1	-	2	-
	縦隔気腫	-	-	-	-	1	-
	心・循環器疾患		3	4	5	7	2
内訳	新生児遷延性高血圧症	1	-	1	1	2	2
	両大血管右室起始症	1	-	1	-	-	-
	新生児肺動脈閉鎖症	1	-	-	-	-	-
	動脈管開存症	-	-	1	3	-	-
	動脈管早期閉鎖	-	1	-	-	-	-
	新生児不整脈	-	1	-	-	-	-
	心室中隔欠損症	-	1	1	1	-	2
	Fallot四徴症	-	1	-	-	-	-
	肺高血圧症	-	-	1	-	-	-
	瘦肺動脈還流異常	-	-	-	1	-	-
	大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	1	-	-
	先天性巨大動脈瘤	-	-	-	-	-	1
	消化管疾患		6	6	6	2	4
内訳	新生児嘔吐	3	5	5	-	2	6
	哺乳障害	1	-	1	-	-	2
	新生児メレナ	-	1	-	-	-	-
	肥厚性幽門狭窄症	1	-	-	-	-	-
	胎便栓症候群	1	-	-	-	-	-
	新生児血便	-	-	-	1	-	1
	胃軸捻症	-	-	-	1	-	-
	体重増加不良	-	-	-	-	1	1
	急性胃粘膜病変	-	-	-	-	1	-
	脳・神経疾患	1	1	2	-	3	4
内訳	新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	1	-	1	2
	先天性水頭症	-	-	-	-	-	-
	新生児の筋緊張症	1	-	-	-	-	-
	新生児痙攣	-	1	1	-	2	1
	てんかんの疑い	-	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群		4	6	3	3	6	3
内訳	18トリソミー	2	-	-	-	-	-
	21トリソミー (疑い含む)	-	3	1	2	4	1
	Prader-Willi症候群	-	1	-	-	-	-
	口唇口蓋裂	-	2	-	-	-	1
	両側低形成腎	1	-	-	-	-	-
	両側先天性水腎症	1	-	-	-	-	-
	気管支肺異形成症	-	-	1	-	-	-
	トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	1	-	-	-
	メンケス病の疑い	-	-	-	1	-	-
	1P36欠失症候群	-	-	-	-	1	-
	ルビンスタイン・タイビー症候群	-	-	-	-	1	-
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	-	-	-	1	

次ページへつづく

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
感染症	13	13	5	5	5	8
重症感染症の疑い	1	-	-	-	-	-
新生児感染症	-	7	3	2	2	4
新生児TSS様発疹症	-	2	-	-	-	-
ウイルス性胃腸炎	1	-	-	-	-	-
サイトメガロウイルス感染症	1	-	1	-	-	-
RSウイルス感染症	1	-	-	-	-	-
MRSA感染症	1	-	-	-	-	-
GBS感染症	-	3	1	-	1	-
子宮内感染症	1	-	-	-	-	-
リステリア症	1	-	-	-	-	-
先天梅毒（疑い含む）	-	1	-	-	-	1
新生児敗血症（疑いも含む）	2	-	-	3	-	1
新生児敗血症のショック	1	-	-	-	-	-
伝染性膿痂症	2	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	1
B群溶連菌感染症	-	-	-	-	1	-
グラム陰性桿菌敗血症	-	-	-	-	1	-
新生児カンジダ症	-	-	-	-	-	1
代謝内分泌	-	-	-	-	-	1
複合性下垂体機能低下症	-	-	-	-	-	1
その他	119	43	81	37	152	158
低出生体重児	27	10	21	9	51	32
極低出生体重児	10	1	4	-	15	11
超低出生体重児	2	-	4	-	2	1
早産児	58	2	31	15	28	-
重症新生児仮死	4	-	3	5	2	26
新生児仮死	2	13	2	4	1	6

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
潜在性胎児仮死	-	1	-	-	-	1
新生児重症黄疸	1	-	-	-	-	-
新生児黄疸	2	-	3	4	18	48
高ビリルビン血症	1	4	1	2	7	4
新生児低血糖	1	4	3	1	1	4
新生児一過性低血糖症	-	-	2	-	-	-
高インスリン性低血糖症	1	4	-	-	-	-
新生児高インスリン血症	-	-	-	-	-	1
新生児低体温症	1	-	-	-	-	1
新生児鎖骨骨折	-	-	1	1	-	-
多血症	3	3	1	-	-	-
新生児ABO不適合溶血性疾患	1	-	-	2	1	-
胎盤輸血症候群	-	-	-	1	21	-
帝切児症候群	2	-	-	2	-	22
新生児血小板減少症	1	-	-	-	-	-
新生児脱水症	1	-	-	-	-	-
後鼻孔閉鎖症	1	-	-	-	-	-
新生児膈炎	-	1	-	-	-	-
帝切児症候群	-	-	2	-	-	-
急性胃腸膜病変	-	-	1	-	-	-
甲状腺腫	-	-	1	-	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-
未熟児網膜症	-	-	1	-	-	-
胎盤からの胎児出血	-	-	-	-	1	-
副腎皮質過剰形成症の疑い	-	-	-	-	1	-
新生児溶血性貧血	-	-	-	-	1	-
新生児便秘症	-	-	-	-	1	-
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	-	-	1

◆ 出生週数（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
23週	-	-	-	-	-	1	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	1	4
25週	1	1	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	2	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	1	2	-	-
28週	1	1	4	3	6	2	3	1	2
29週	2	4	4	2	1	1	-	3	5
30週	4	8	5	3	5	3	2	9	2
31週	10	5	7	4	10	9	9	9	7
32週	8	5	12	10	14	13	4	7	7
33週	11	9	22	13	17	12	15	11	9
34週	16	18	17	23	22	22	21	24	27
35週	19	28	27	33	36	-	28	41	24
36週	18	13	13	17	16	14	9	20	31
37週以上	112	122	127	104	97	89	86	146	162

◆ 出生時体重（例）

1,000g以上を受け入れ可としているため、超低出生体重児の多くはバックトランスファーである。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	-	-	-	-	-	1	-	-	-
500-749g	1	-	-	-	-	-	-	2	4
750-999g	1	3	2	4	2	7	-	1	-
1,000-1,249g	6	6	6	6	10	6	6	9	6
1,250-1,499g	8	11	21	10	10	7	9	10	9
1,500-1,749g	16	10	24	16	23	19	11	16	15
1,750-1,999g	21	27	20	31	35	27	27	25	24
2,000-2,249g	28	26	23	31	25	29	27	35	30
2,250-2,499g	22	26	31	25	27	27	23	40	37
2,500g以上	99	105	112	93	93	80	74	134	155

◆ 人工呼吸器管理症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院数（例）	202	214	239	216	225	203	177	272	280
人工呼吸器管理症例数（例）	112	80	86	66	84	67	63	60	54
人工呼吸器管理症例率（%）	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

外科及び心疾患対応施設へ転院しての手術がほとんどであるが、2番目の症例は、当院にて施行した。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	39週	3,046g	重症新生児仮死	気管切開術
男	24週	608g	新生児慢性肺疾患・肺高血圧症	気管切開術
男	24週	716g	未熟児網膜症	レーザー光凝固術

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
24週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）
25週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）
29週	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	-（0 / 0）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）
30週	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（9 / 9）	100.0（2 / 2）
31週	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）
32週	100.0（10 / 10）	100.0（14 / 14）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（7 / 7）	100.0（7 / 7）
33週	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（12 / 12）	100.0（15 / 15）	100.0（11 / 11）	100.0（9 / 9）
34週	100.0（23 / 23）	100.0（22 / 22）	100.0（22 / 22）	100.0（21 / 21）	100.0（24 / 24）	100.0（27 / 27）
35週	97.0（32 / 33）	100.0（36 / 36）	96.9（31 / 32）	100.0（28 / 28）	100.0（41 / 41）	100.0（24 / 24）
36週	100.0（17 / 17）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）	100.0（9 / 9）	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）
37週以上	100.0（104 / 104）	97.9（95 / 97）	100.0（89 / 89）	98.8（85 / 86）	99.3（145 / 146）	98.8（160 / 162）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）
750-999g	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
1,000-1,249g	83.3（5 / 6）	100.0（10 / 10）	100.0（6 / 6）	100.0（6 / 6）	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）
1,250-1,499g	100.0（10 / 10）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）	100.0（9 / 9）	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）
1,500-1,749g	100.0（16 / 16）	100.0（23 / 23）	100.0（19 / 19）	100.0（11 / 11）	100.0（16 / 16）	100.0（15 / 15）
1,750-1,999g	100.0（31 / 31）	100.0（35 / 35）	100.0（27 / 27）	96.3（26 / 27）	100.0（25 / 25）	100.0（24 / 24）
2,000-2,249g	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	96.6（28 / 29）	100.0（27 / 27）	100.0（35 / 35）	100.0（30 / 30）
2,250-2,499g	100.0（25 / 25）	100.0（27 / 27）	100.0（27 / 27）	100.0（23 / 23）	100.0（40 / 40）	97.3（36 / 37）
2,500g以上	100.0（93 / 93）	97.8（91 / 93）	100.0（80 / 80）	100.0（74 / 74）	99.3（133 / 134）	99.4（154 / 155）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	-	1	1	2	-	1	-	2
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-	1	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	38週	2,980g	4日	低酸素性虚血性脳症
男	24週	608g	1才1ヶ月	新生児慢性肺疾患・肺高血圧症
女	37週	2,474g	0日	新生児遷延性肺高血圧症

◆ 新生児搬送収容数（例）

新生児搬送数は、新病院病床数増床後は横ばいである。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新生児搬送収容数	47	81	65	62	79	78	68	56	69	67

◆ 新生児搬送疾患名 (例 重複あり)

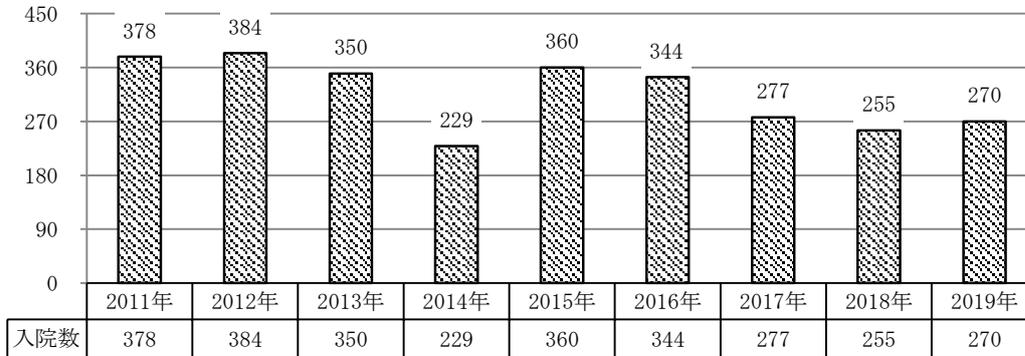
	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	51	37	36	32	31	41
呼吸障害	48	3	9		21	1
新生児低酸素血症	-	-	-	-	-	-
新生児一過性多呼吸	-	31	17	27	5	32
新生児無呼吸発作	-	1	2		1	2
新生児呼吸窮迫症候群	-		2	1		2
新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	1	1	2	1	-
喉頭蓋嚢胞	-	1	-	-	-	-
新生児肺出血	2	-	1	1	-	-
気管支肺異形成症	-	-	1	-	-	-
胎便吸引症候群	1		2	1	3	4
新生児肺炎	-	-	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	-	1	-	-	-
心・循環器疾患	2	3	3	4	5	2
完全大血管転位症	-	1	-	-	-	-
肺高血圧症	-		1	-	-	-
新生児遅延性肺高血圧症	-	-	-	-	-	-
新生児遷延性肺高血圧症	-	2	1			1
両大血管右室起始症	1	-	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	1	1	-
新生児血小板減少症	1	-	-	-	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	1	1	-
上室性頻拍症	-	-	-	-	1	-
先天性巨大動脈瘤	-	-	-	-	-	1
動脈管開存症	-	-	1	2	2	-
消化管疾患	7	6	3	2	5	7
新生児嘔吐症	3	1	3	-	-	4
特発性嘔吐症	-	-	-	-	-	-
新生児メレナ	-	1	-	-	-	-
哺乳不良	2	3	-	-	1	-
哺乳障害	-	-	-	-	1	2
新生児腸回転異常の疑い	-	1	-	-	-	-
水様便	1	-	-	-	-	-
胃軸捻症				1		
腹部膨満	1	-	-	-	-	-
新生児血便	-	-	-	1	-	-
新生児便秘症	-	-	-	-	1	-
体重増加不良	-	-	-	-	-	1
膀胱尿管逆流	-	-	-	-	1	-
副腎皮質過形成症の疑い	-	-	-	-	1	-
脳・神経疾患	1	3	1	-	-	1
新生児痙攣	-	1	1	-	2	1
筋緊張	1	1	-	-	-	-
睡眠時ミオクローヌス	-	1	-	-	-	-

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
染色体異常 奇形症候群	-	2	1	2	4	2
染色体異常	-	-	-	-	1	-
口唇口蓋裂	-	1	-	-	-	-
片側性唇顎口蓋裂	-	1	-	-	-	-
メンケス病の疑い	-	-	-	1	1	-
ダウン症(疑い含む)	-	-	1	1	1	1
頸部嚢胞性リンパ管腫	-	-	-	-	-	1
1p36欠失症候群 TRPV4遺伝子ナンセンス変異	-	-	-	-	1	-
感染症	4	6	3	3	2	4
感染症	3	5	2	2	1	2
新生児細菌性髄膜炎	-	1	-	-	-	1
新生児敗血症	1	-	-	1	-	-
新生児カンシダ症	-	-	-	-	-	1
敗血症の疑い	-	-	-	-	1	-
先天性サイトメガロウィルス感染症	-	-	1	-	-	-
その他	12	21	21	13	24	10
低出生体重児	2	5	1	1	5	1
極低出生体重児	-	2	1	1	1	-
超低出生体重児	-	-	3	1	1	-
早産児	2	5	5	1		2
新生児仮死	1	2	-	-	2	1
重症新生児仮死	-	4	3	4		3
黄疸	2	-	3	1	3	-
新生児高ビリルビン血症	-	-	1	1	2	1
低血糖	1	2	-	-	-	-
発熱	2	-	-	-	-	-
新生児ABO不適合溶血性疾患	-	-	-	1	-	-
新生児脱水症	1	-	-	-	-	-
C B W	1	-	-	-	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	1	-	-	1
G B S 敗血症	-	-	1	-	-	-
心室中隔欠損症	-	-	1	1	-	1
新生児鎖骨骨折	-	-	1	1	-	-
鼠径ヘルニア	-	-	-	-	1	-
胎盤からの胎児出血	-	-	-	-	1	-
高度インスリン低血糖症	-	1	-	-	-	-
詳細不明	-	-	-	-	8	-

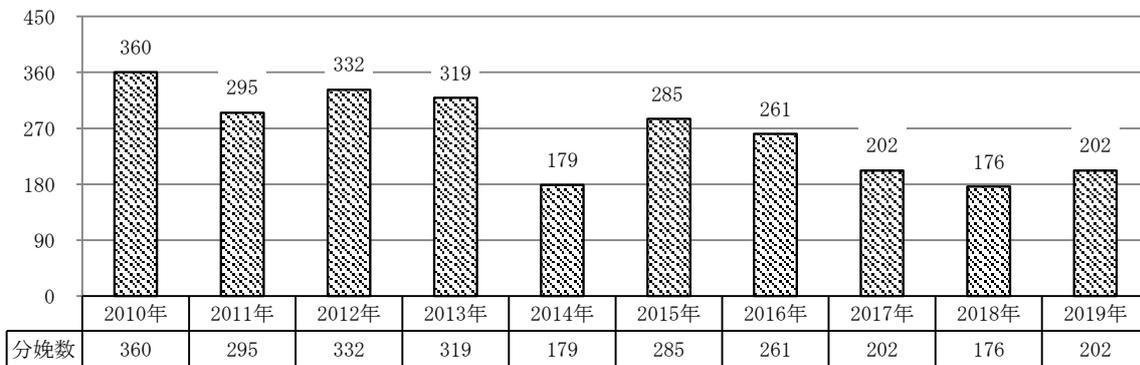
4. 近畿大学奈良病院

(1) 産科部門診療実績

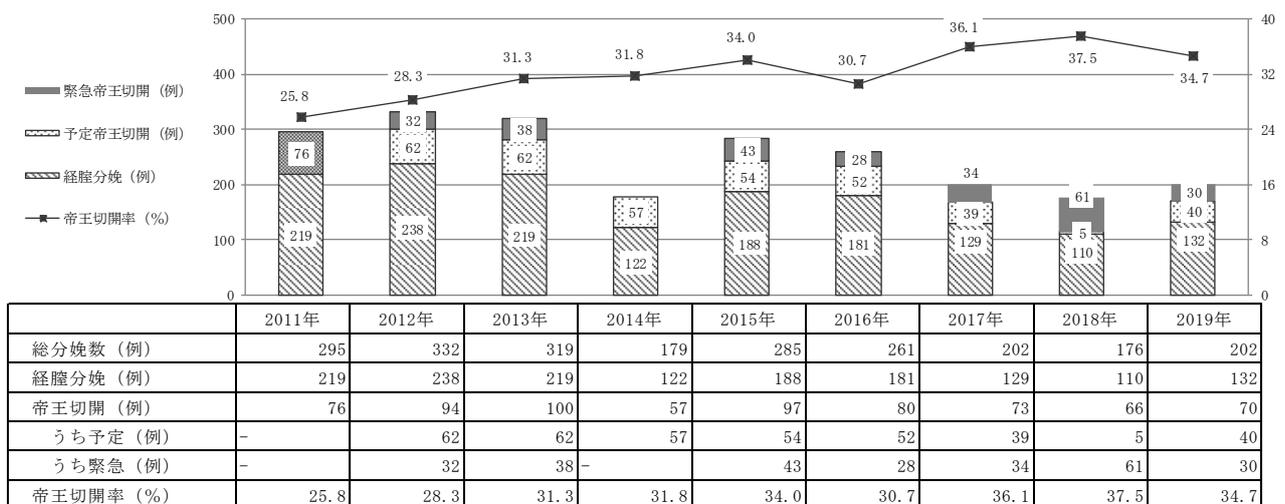
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
23週	-	-	1	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-	-	2	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	1
32週	1	-	-	1	3	-	3	-	-
33週	-	1	1	2	1	3	1	6	2
34週	-	1	2	1	4	8	5	5	3
35週	1	2	2	-	10	4	5	6	4
36週	4	8	8	1	15	11	5	9	5
37週	39	54	44	28	34	31	24	29	16
38週	46	75	77	48	78	70	57	43	69
39週	70	70	77	32	65	56	46	36	37
40週	91	80	67	45	58	54	41	35	50
41週	37	32	39	19	17	21	15	11	15
42週	-	2	1	1	-	1	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	-	-	1	-	-	-	-	-	-
500-999g	-	1	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2	-	-	2	-
1,500-1,999g	1	2	3	3	6	6	6	7	5
2,000-2,499g	24	22	34	7	31	38	25	24	14
2,500g以上	264	307	281	168	246	220	172	149	183

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	196	232	196	88	154	152	111	96	117
35-39歳	85	71	102	67	98	78	74	68	62
40-44歳	14	29	21	24	30	29	16	11	22
45歳以上	-	-	-	-	-	2	1	1	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	-	-	-	-	14	16	11	12	10
子宮筋腫（核出術後）	2	1	-	6	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	13	17	21	14	3
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	4	-	-	6	-	2
子宮奇形	-	-	-	-	-	1	-	-	2
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1	1	4	2	4
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6	8	13	6	16
糖尿病（含GDM）	1	-	-	5	12	37	21	27	21
喘息	-	-	-	1	11	12	12	3	11
慢性腎炎	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ITP	-	-	-	-	2	3	2	2	2
自己免疫疾患	-	-	-	1	2	-	-	1	1
循環器疾患	-	-	-	-	4	5	6	2	1
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	-	-	3	-	2	6
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	3	3	-	1	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	11	11	15	1	2
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	10

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	3	4	24	16	18	35	90	25	23
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15	11	9	10	12
胎内胎児発育制限	1	-	-	9	9	15	13	10	2
多胎妊娠	-	-	3	1	6	5	3	7	-
前置胎盤	1	4	1	1	4	-	-	4	-
産後出血	4	1	-	-	3	19	26	3	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	-	-	2	1	3	3
常位胎盤早期剥離	-	-	5	1	2	2	4	1	3
HELLP症候群	-	-	-	-	1	1	-	-	1
低置胎盤	-	-	-	-	1	3	1	1	1
血液型不適合	-	-	-	-	1	11	9	5	5
羊水過多	-	-	-	1	-	5	4	1	1
羊水過小	-	-	-	-	-	11	10	-	3
先天異常	-	-	-	11	2	8	6	4	4

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1	1	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-	1	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	-	3	-	-	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-	9	5	-	4

◆ NICU 収容症例数（例）

	2018年	2019年
NICU収容症例数	51	34

2018年:うち未熟児 31例

(※2018年より新規集計)

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	7	-
うちMD	-	-
うちDD	7	-

(※2018年より新規集計)

◆ 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年
母体搬送収容数	8	4

(※2018年より新規集計)

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）

	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	5	4
妊娠高血圧症候群	2	-
前置胎盤	1	-
胎児奇形	1	-

(※2018年より新規集計)

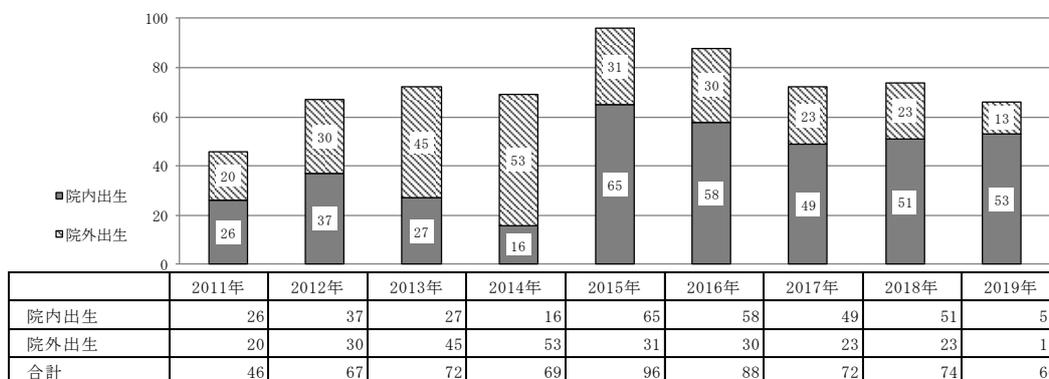
◆ 先天異常（例 重複あり）

疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	1	-	1	-
心室中隔欠損	1	-	-	-
水腎症	1	1	2	2
鎖肛	1	1	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	-	-
卵巣嚢腫	1	1	1	1
腹壁破裂	1	1	-	-
脳出血	1	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	1	1
先天性側弯	-	-	1	1
脳室拡大	-	-	1	1

(※2018年より新規集計)

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

先天性水頭症：汎血球減少もあり何らかの系統疾患疑い

低酸素性虚血性脳症：気管切開目的で転院、低体温症：自宅分娩

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	19	21	20	12	12	11
内訳						
新生児一過性多呼吸	-	-	-	-	-	7
呼吸窮迫症候群	-	-	-	-	-	1
胎便吸引症候群	-	-	-	-	-	3
心・循環器疾患	12	6	3	2	3	1
重度肺動脈狭窄	-	-	-	-	-	1
消化管疾患	16	10	12	22	17	16
内訳						
新生児嘔吐症	-	-	-	-	-	6
血便	-	-	-	-	-	2
腸回転異常症疑い	-	-	-	-	-	2
回腸狭窄症	-	-	-	-	-	1
哺乳力不良	-	-	-	-	-	1
横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	-	1
血性嘔吐	-	-	-	-	-	3

(2014年～2018年：疾患内訳は未集計)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
脳・神経疾患	2	2	3	1	-	2
内訳						
低酸素性虚血性脳症	-	-	-	-	-	1
仙尾部奇形腫	-	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群	-	-	-	-	-	2
内訳						
ダウン症候群疑い	-	-	-	-	-	1
先天性水頭症	-	-	-	-	-	1
感染症	3	6	3	3	2	1
新生児感染症	-	-	-	-	-	1
その他	12	38	35	29	39	33
内訳						
低出生体重児 (1,500-2,499g)	-	-	-	-	-	21
新生児黄疸	-	-	-	-	-	3
多血症	-	-	-	-	-	1
新生児仮死	-	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	1
低体温症	-	-	-	-	-	1
過体重児	-	-	-	-	-	1
頸部リンパ管腫	-	-	-	-	-	1
下腿浮腫	-	-	-	-	-	1
水腎症	-	-	-	-	-	2

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
22週未満	-	2	-	-	-	-	-
22週	-	-	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	1	-
25週	1	-	1	-	-	-	-
26週	-	-	-	1	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-
28週	1	-	-	-	-	1	-
29週	1	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	1	-
31週	-	-	-	-	-	-	1
32週	2	1	2	-	3	-	-
33週	1	1	4	3	1	6	2
34週	1	1	5	11	9	7	3
35週	2	-	13	5	5	5	4
36週	6	1	15	7	5	8	6
37週以上	57	174	56	62	48	46	50

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	-	2	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	1	-
750-999g	1	-	1	1	-	-	-
1,000-1,249g	1	1	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	3	-	3	-	1	3	-
1,500-1,749g	3	2	1	4	5	2	3
1,750-1,999g	-	1	7	4	4	5	3
2,000-2,249g	2	4	11	15	6	7	4
2,250-2,499g	17	4	21	18	20	22	11
2,500g以上	45	167	52	46	36	34	45

◆ 人工呼吸器管理症例

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院数（例）	72	69	96	88	72	74	66
人工呼吸器管理症例数（例）	17	20	10	16	15	10	8
人工呼吸器管理症例率（%）	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8	13.5	12.1

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	41週	3,714g	両側卵巣嚢腫	腹腔鏡補助下卵巣嚢腫摘出術
女	36週	2,562g	回腸狭窄症	腹腔鏡下腸管部分切除術
男	39週	3,046g	低酸素性虚血性脳症	気管切開
女	35週	2,580g	横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下横隔膜形成術
男	38週	3,456g	水腎症	腎盂形成術
女	40週	3,234g	頸部リンパ管腫	硬化療法×2 気管切開

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存率（%）

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
22週未満	0.0（0 / 2）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
22週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
23週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
24週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
25週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
26週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
32週	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	-（- / -）	-（- / -）
33週	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）
34週	100.0（1 / 1）	80.0（4 / 5）	100.0（11 / 11）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）
35週	-（- / -）	100.0（13 / 13）	80.0（4 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）
36週	100.0（1 / 1）	93.3（14 / 15）	100.0（7 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）
37週以上	100.0（174 / 174）	98.2（55 / 56）	100.0（62 / 62）	97.9（47 / 48）	100.0（46 / 46）	100.0（50 / 50）

内訳：各週数毎の生存数（例）/各週数毎の出生数（例）

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)
500g未満	0.0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
750-999g	0.0 (0 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,000-1,249g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,250-1,499g	- (- / -)	33.3 (1 / 3)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)
1,500-1,749g	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)
1,750-1,999g	100.0 (1 / 1)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)
2,000-2,249g	100.0 (4 / 4)	100.0 (11 / 11)	93.3 (14 / 15)	100.0 (6 / 6)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)
2,250-2,499g	100.0 (4 / 4)	100.0 (21 / 21)	100.0 (18 / 18)	100.0 (20 / 20)	100.0 (22 / 22)	100.0 (11 / 11)
2,500g以上	100.0 (167 / 167)	98.1 (51 / 52)	100.0 (46 / 46)	100.0 (36 / 36)	100.0 (34 / 34)	100.0 (45 / 45)

内訳：各体重毎の生存率(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	1	1	-	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	1	-	2	-	1	-	-

◆ 死亡例一覧

該当なし

◆ 新生児搬送収容数 (例)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新生児搬送収容数	5	6	7	20	15	20	24	23	10	12

◆ 新生児搬送疾患名 (例 重複あり)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	16	18	12	10	1	-
内訳						
呼吸障害	8	9	12	5	-	-
新生児一過性多呼吸	8	8	6	1	-	-
多呼吸	-	1	2	-	-	-
胎便吸引症候群	-	-	2	-	-	-
新生児気胸	-	-	1	-	-	-
気切	-	-	-	3	-	-
SpO2低下	-	-	-	1	-	-
喉頭蓋嚢胞	-	-	-	-	1	-
心・循環器疾患	3	1	2	1	-	1
内訳						
心疾患	-	-	-	-	-	-
心雑音	1	-	1	-	-	1
肺高血圧症	-	-	1	-	-	-
ファロー四徴症	-	1	-	-	-	-
心室中隔欠損 (VSD)	-	-	-	-	-	-
不整脈	1	-	-	1	-	-
心内膜症欠損	-	-	-	-	-	-
単心室	1	-	-	-	-	-
消化管疾患	4	7	6	11	-	7
内訳						
新生児嘔吐症	-	2	-	1	-	2
血性嘔吐	-	1	-	-	-	-
嘔吐	1	1	-	2	2	-
哺乳緩慢	-	-	1	-	-	-
哺乳不良	-	-	1	1	2	-
新生児メレナ	-	1	-	-	-	-
血便	1	-	-	-	1	2
小腸狭窄	-	1	-	-	-	1
鎖肛	-	-	1	-	-	-
腹壁破裂	-	-	-	-	-	-
腹部膨満	2	1	2	1	-	-
胃出血	-	-	-	1	-	-
腸炎	-	-	-	-	-	-
ヒルシュスプルング病疑い	-	-	-	2	1	-
ヒルシュスプルング病根治術	-	-	-	-	-	-
腸回転異常症の疑い	-	-	-	1	-	2
消化管閉鎖の疑い	-	-	-	-	-	-
消化管狭窄疑い	-	-	1	-	-	-
横隔膜ヘルニア	-	-	-	1	-	-
滞便イリウス	-	-	-	1	-	-

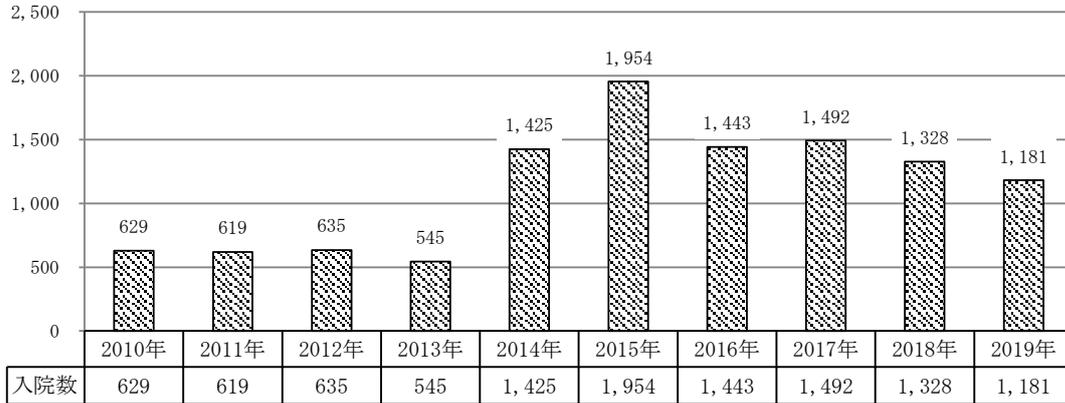
	2014	2015	2016	2017	2018	2019
脳・神経疾患	-	-	-	-	-	1
内訳						
低酸素性虚血性脳症の気切	-	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形候群	1	3	1	2	-	-
染色体異常	-	-	-	1	-	-
ダウン症の疑い	1	2	1	-	-	-
口唇口蓋裂	-	1	-	1	-	-
感染症	-	1	-	-	-	-
感染症	-	1	-	-	-	-
その他	3	2	9	3	5	3
内訳						
黄疸	-	-	1	-	1	-
新生児仮死	-	1	-	-	-	-
重傷新生児仮死	-	-	1	-	-	-
超低出生体重児	-	-	1	-	-	-
極低出生体重児	-	-	-	-	1	-
低出生体重児	-	-	-	2	-	-
活気不良	-	-	-	-	-	-
チアノーゼ	1	-	-	-	-	-
日令2からのタール便持続	1	-	-	-	-	-
発熱	1	1	1	-	-	-
下血	-	-	-	-	-	-
21トリソミー疑い	-	-	1	-	-	-
VSD検査	-	-	1	-	-	-
先天性表皮水疱症うたがい	-	-	1	-	-	-
新生児転院のため搬送	-	-	1	-	-	-
体重増加不良	-	-	-	-	1	-
新生児痙攣	-	-	-	-	1	-
トリーチャー・コリンズ症候群	-	-	-	1	-	-
下腿浮腫	-	-	-	-	-	1
頸部リンパ管腫	-	-	-	-	-	1
仙尾部奇形腫	-	-	-	-	-	1
詳細不明	-	-	1	-	1	-

5. 天理よろづ相談所病院

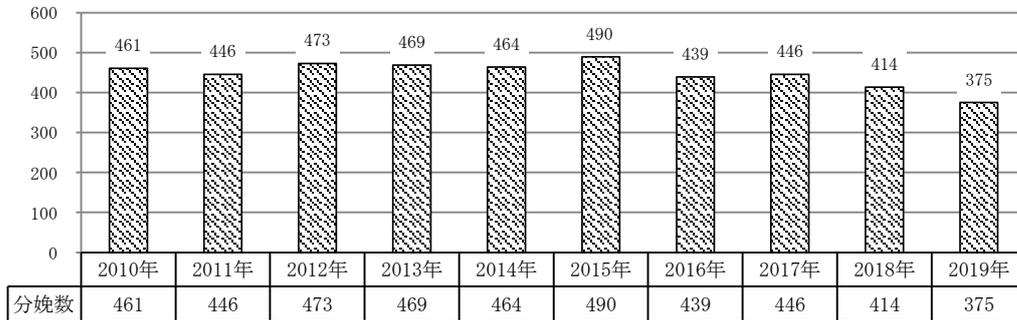
(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

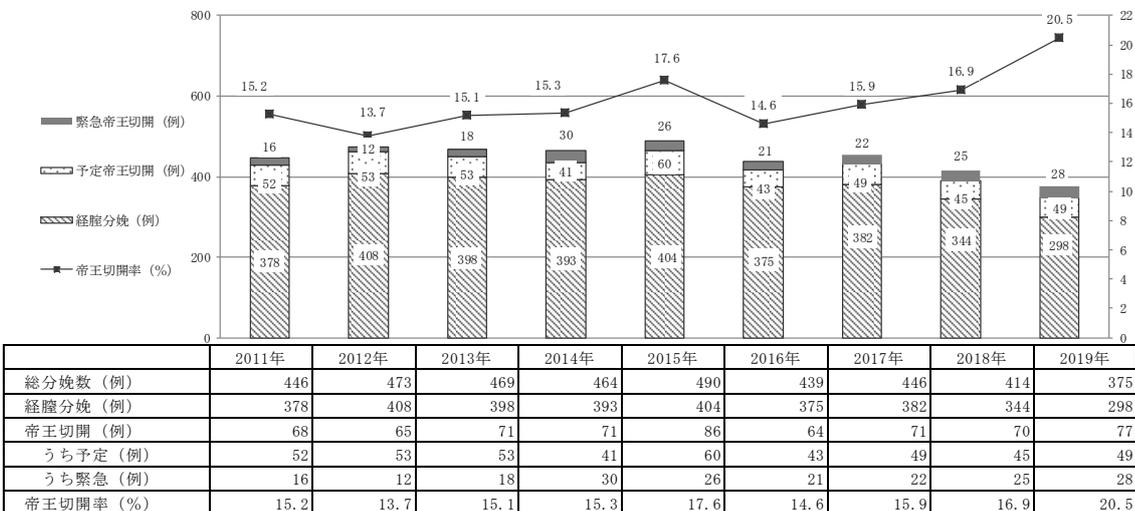
2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可。



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
34週	2	-	1	-	1	3	-	1	-
35週	5	6	8	10	7	4	3	3	3
36週	19	8	9	15	15	15	14	10	9
37週	76	83	38	56	39	29	50	57	44
38週	128	118	151	121	138	107	112	107	77
39週	123	163	146	137	151	98	140	132	105
40週	83	77	92	99	101	135	97	89	113
41週	11	18	21	21	28	30	29	15	21

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2	6	2	1	1
2,000-2,499g	41	46	46	41	46	27	33	31	22
2,500g以上	403	423	413	414	433	403	411	384	349

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	329	355	337	343	345	306	304	295	254
35-39歳	96	88	120	96	118	109	114	92	93
40-44歳	19	30	11	25	27	17	26	27	25
45歳以上	2	-	1	-	-	1	1	-	3

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	25	19	20	18	14	15	10	5	12
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	6	2	2	-	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	2	1	-	-	10	11	5	7
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	1	-	-	3	-	-	-
子宮奇形	-	1	3	1	-	-	4	-	2
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16	11	4	4	2
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	4	4	4	1	8
糖尿病（含GDM）	16	15	28	27	6	33	30	17	32
喘息	11	16	14	13	15	8	4	2	20
慢性腎炎	-	-	-	-	-	-	1	-	1
本態性高血圧	-	-	1	1	-	-	1	-	2
ITP	2	1	-	1	-	-	1	-	1
自己免疫疾患	4	5	4	6	6	6	7	1	3
循環器疾患	3	12	3	6	2	3	6	3	7
精神科疾患（含てんかん）	4	6	10	10	3	7	7	3	8
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	1	-	-	2	-	-	2
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	-	-	-	-	2
その他	-	-	-	-	-	7	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

「先天異常」の項目は、異常の定義は不明なため未集計としている。

「産後出血」は定義不明なため2015年より未集計としている。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	139	128	132	142	152	113	93	41	25
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16	14	7	4	8
胎内胎児発育制限	11	34	11	7	10	3	4	6	5
多胎妊娠	2	6	6	3	5	3	3	2	1
前置胎盤	2	1	1	-	2	1	4	-	-
産後出血	111	101	115	96	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	-	-	-	44	21	94
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4	1	4	-	-
HELLP症候群	-	1	-	-	-	-	-	2	-
低置胎盤	-	-	3	2	1	2	-	2	2
血液型不適合	-	-	-	-	-	-	-	-	2
羊水過多	-	-	2	-	-	-	-	-	1
羊水過小	-	-	-	4	4	-	1	1	1
先天異常	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	5	-	-	-	-	5	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12	10	2	3	2
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	2	1	-	-	1	-	1	2
産道血腫除去術	-	1	-	-	-	-	1	1	-
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1	-	-	-	-
子宮摘出術	-	-	-	2	-	1	1	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1	2	5	1	1

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	2	1
うちMD	-	-
うちDD	2	1

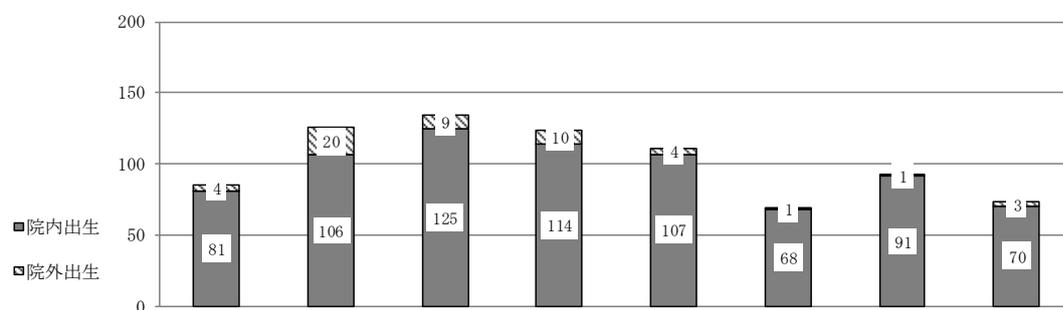
（※2018年より新規集計）

◆ 先天異常（例 重複あり）

未集計

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
院内出生	81	106	125	114	107	68	91	70
院外出生	4	20	9	10	4	1	1	3
合計	85	126	134	124	111	69	92	73

◆ 入院時疾患名 (例)

気胸 5例は、一過性多呼吸やMASに併発。

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
呼吸器疾患	47	82	72	35	44	15	
内訳	一過性多呼吸	-	-	37	19	20	10
	呼吸障害	-	-	27	14	19	5
	気胸 (軽症)	-	-	8	2	5	(5)
	心・循環器疾患	5	4	3	2	-	-
先天性心疾患	-	-	-	3	2	-	
消化管疾患	10	3	5	1	-	1	
内訳	ミルクアレルギー	-	-	1	1	-	-
	腸回転異常	-	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	13	5	1	-	3	-	
染色体異常 奇形症候群	1	2	1	-	3	-	
ダウン症候群	-	-	-	1	2	-	
感染症	32	2	35	14	17	12	
内訳	MAS (軽症)	-	-	2	1	3	5
	不明感染症	-	-	33	13	13	7
	GBS感染	-	-	-	-	1	-
代謝内分泌	-	-	-	-	-	10	
低血糖症	-	-	-	-	-	10	
その他	33	24	29	20	29	35	
内訳	特発性黄疸	-	-	23	14	17	12
	仮死	-	-	6	6	9	5
	低体重	-	-	-	-	-	5
	多発小奇形	-	-	-	-	-	1
	頬脈	-	-	-	-	-	1
	哺乳不良	-	-	-	-	-	5
	無呼吸発作	-	-	-	-	-	2
	血小板減少	-	-	-	-	-	1
	早期産	-	-	-	-	-	3

(※2014～2015年は疾患内訳未集計)

◆ 出生週数（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
26週	-	1	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	2	-	-	-
34週	-	1	-	1	4	-	1	1
35週	4	9	11	6	3	4	3	3
36週	4	5	9	7	11	12	4	10
37週以上	77	109	114	110	91	52	84	59

◆ 出生時体重（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	-	1	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-	-	-	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-	2	-	-	1
1,750-1,999g	3	5	4	3	4	2	1	1
2,000-2,249g	10	8	5	10	7	4	6	6
2,250-2,499g	10	15	18	16	11	8	13	5
2,500g以上	61	95	107	95	85	54	72	60

◆ 人工呼吸器管理症例

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院数（例）	85	126	134	124	111	68	92	73
人工呼吸器管理症例数（例）	2	0	0	0	4	2	0	6
人工呼吸器管理症例率（%）	2.4	0.0	0.0	0.0	3.6	2.9	0.0	8.2

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）	2018年（内訳）	2019年（内訳）
33週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
34週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	-（- / -）	（1 / 1）	100.0（1 / 1）
35週	100.0（11 / 11）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）
36週	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（12 / 12）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）
37週以上	100.0（114 / 114）	100.0（110 / 110）	100.0（91 / 91）	100.0（52 / 52）	98.8（83 / 84）	100.0（59 / 59）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢 28 日以後の生存数 (例)

	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)	2018年 (内訳)	2019年 (内訳)
1,500-1,749g	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
1,750-1,999g	100.0 (4 / 4)	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)
2,000-2,249g	100.0 (5 / 5)	100.0 (10 / 10)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	100.0 (6 / 6)	100.0 (6 / 6)
2,250-2,499g	100.0 (18 / 18)	100.0 (16 / 16)	100.0 (11 / 11)	100.0 (8 / 8)	100.0 (13 / 13)	100.0 (5 / 5)
2,500g以上	100.0 (107 / 107)	100.0 (95 / 95)	100.0 (85 / 85)	100.0 (54 / 54)	98.6 (71 / 72)	100.0 (60 / 60)

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	-	-	-	-	1	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

該当なし

◆ 新生児搬送収容数 (例)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
新生児搬送収容数	-	-	-	22	9	10	4	1	1	2

◆ 新生児搬送疾患名 (例 重複あり)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	4	4	1	1	-	1
内訳						
呼吸障害	4	4	-	1	-	1
肺炎	-	-	1	-	-	-
脳・神経疾患	-	-	-	-	-	-
消化管疾患	3	2	-	-	-	-
内訳						
哺乳不良	3	1	-	-	-	-
メレナ疑い	-	1	-	-	-	-
血性嘔吐	-	1	-	-	-	-
その他	-	1	-	-	1	-
内訳						
チアノーゼ	-	1	-	-	1	-
低体重、双子	-	-	-	-	-	-

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
心・循環器疾患	2	3	5	-	-	1
内訳						
ファロー	-	2	-	-	-	-
VSD	-	1	-	-	-	-
徐脈発作	-	1	-	-	-	-
不整脈	-	1	-	-	-	1
完全大血管転移	-	-	1	-	-	-
両大血管右室起始	-	-	1	-	-	-
房室中隔欠損	-	-	2	-	-	-
肺動脈狭窄	-	-	1	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	-	-	1	-	-	-
肺動脈狭窄	-	-	1	-	-	-

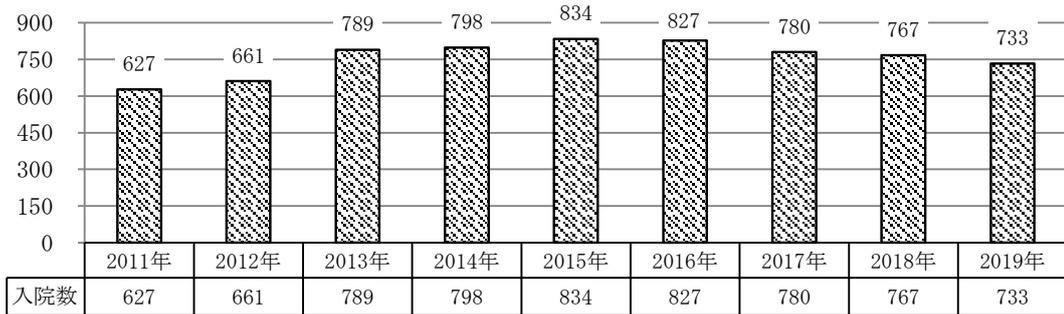
6. 県内分娩取扱病院

(1) 市立奈良病院

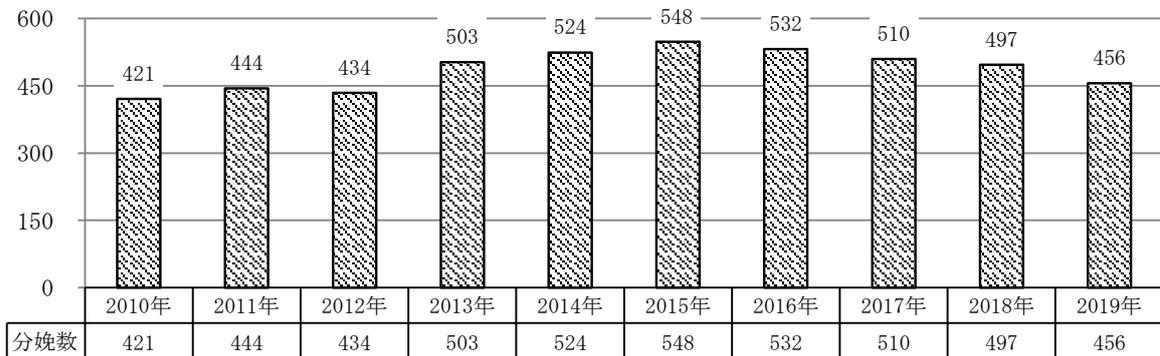
①産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

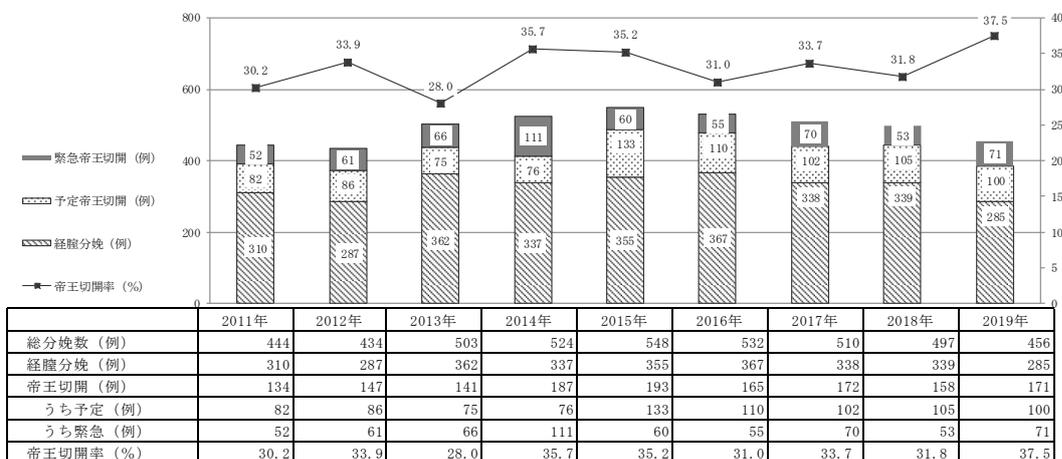
入院DPC情報より、ICDコードの000-099妊娠、分娩及び産褥が主病名で入院した患者数を入力している。



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35週	1	1	1	3	-	-	3	-	-
36週	13	14	13	25	17	24	18	21	18
37週	67	44	46	52	70	65	63	62	52
38週	100	121	140	132	157	145	146	129	150
39週	108	125	132	142	137	158	124	137	115
40週	110	96	128	113	136	115	125	99	100
41週	34	27	40	39	30	24	28	42	23
42週	1	2	1	-	-	-	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2	1	1	1	2
2,000-2,499g	27	20	35	26	34	32	35	33	31
2,500g以上	409	410	466	485	511	497	472	456	425

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	328	324	391	383	394	395	373	368	321
35-39歳	80	85	89	108	121	112	107	100	116
40-44歳	15	21	21	23	33	25	28	27	19

◆ 合併症妊娠（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	8	7	25	20	23	26	14	25
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2	-	-	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11	11	6	11	8
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8	-	2	3	10
子宮奇形	-	-	-	2	4	1	5	3
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4	3	5	5
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9	10	8	13
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19	16	30	17	17
喘息	5	1	12	11	23	9	15	14
慢性腎炎	-	-	-	1	6	-	2	1
本態性高血圧	1	-	2	3	1	3	1	1
自己免疫疾患	-	-	-	2	3	1	2	1
循環器疾患	1	-	1	2	3	2	2	6
精神科疾患（含てんかん）	-	1	7	6	2	11	8	6
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	3	1	3	-	1	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	1	3	4	-	5	7
その他	-	-	-	-	4	-	-	40

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	-	58	73	63	61	205	201	272	231
妊娠高血圧症候群	1	10	13	28	16	9	9	18	27
胎内胎児発育制限	2	11	28	18	19	24	35	28	27
多胎妊娠	2	-	-	-	1	3	2	2	2
前置胎盤	-	-	-	-	-	-	1	1	1
産後出血	3	17	26	14	12	-	16	34	17
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	-	-	10	10	33	14
常位胎盤早期剥離	1	1	-	2	1	-	2	1	5
HELLP症候群	-	-	-	4	-	-	1	-	3
低置胎盤	-	-	-	1	3	1	-	-	1
血液型不適合	-	-	-	7	6	11	4	3	3
羊水過多	-	-	-	-	1	2	-	1	-
羊水過小	-	-	-	5	6	6	1	3	8
先天異常	-	-	-	1	1	6	3	1	-
その他	-	-	-	3	-	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	5	5	2	8	6	14	5	5	4
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	3	1	-	1	-	-	2	2
産道血腫除去術	2	2	1	1	2	-	3	-	-
子宮動脈塞栓術	1	1	-	2	1	-	1	2	5
子宮摘出術	-	-	-	-	1	-	-	-	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	2	2	2	2	3	1	3	2	4

◆ 多胎妊娠（例）

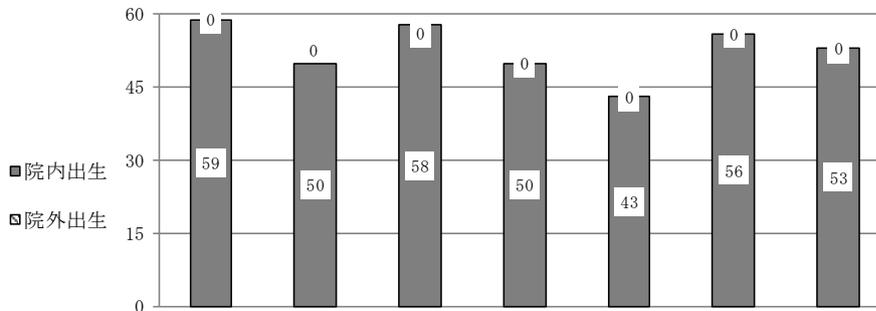
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
双胎	2	-	-	-	1	3	2	2	2
うちMD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD	2	-	-	-	1	3	2	2	2

◆ 先天異常（例 重複あり）

該当なし

②新生児部門診療実績

◆ 入院数（例）



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
院内出生	59	50	58	50	43	56	53
院外出生	-	-	-	-	-	-	-
合計	59	50	58	50	43	56	53

◆ 入院時疾患名（例）

発症当日に転院搬送となった症例は含まず。呼吸器疾患は主に新生児一過性多呼吸、黄疸と例年通りの割合である。

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
呼吸器疾患	18	12	16	11	10	15
内 新生児一過性多呼吸	-	-	-	-	6	11
内 無呼吸発作	-	-	-	-	2	2
内 胎便吸引症候群	-	-	-	-	1	2
内 気胸（軽症）	-	-	-	-	1	-
心・循環器疾患	-	-	2	-	-	-
消化管疾患	1	5	4	7	4	4
内 吐血	-	-	-	-	3	1
内 嘔吐症	-	-	-	-	1	3
脳・神経疾患	13	5	1	-	2	-

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
染色体異常 奇形症候群	-	-	-	-	-	1
口唇口蓋裂	-	-	-	-	-	1
感染症	1	2	4	3	5	3
内 新生児感染症	-	-	-	-	4	3
内 梨状窩瘻	-	-	-	-	1	-
代謝内分泌	-	4	2	-	3	1
低血糖症	-	4	2	-	3	1
その他	30	39	24	20	35	29
内 新生児黄疸	-	27	17	-	21	26
内 哺乳不良・体重減少	-	-	-	-	4	1
内 新生児仮死	-	-	-	-	3	2
その他	-	8	5	-	4	-

（2014～2017年：疾患内訳は一部未集計）

◆ 出生週数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35週	1	1	-	-	3	-	-
36週	5	11	8	6	4	10	6
37週以上	53	38	50	44	36	46	47

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500g～1,749g	-	1	-	-	-	-	1
1,750g～1,999g	-	-	2	-	1	1	-
2,000g～2,249g	5	2	4	1	-	2	3
2,250g～2,499g	4	6	6	5	4	4	2
2,500g以上	50	41	46	44	38	49	47

◆ 人工呼吸器管理症例

該当なし

Nasal high flow など非侵襲的な呼吸補助は含めていない。

◆ 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

◆ 血液浄化症例

該当なし

◆ 出生週数別の日齢 28 日以後の生存数（例）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）
35週	-（ - / - ）	-（ - / - ）
36週	100.0（ 10 / 10 ）	100.0（ 6 / 6 ）
37週以上	100.0（ 46 / 46 ）	100.0（ 47 / 47 ）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢 28 日以後の生存数（例）

	2018年（内訳）	2019年（内訳）
1,500-1,749g	-（ - / - ）	100.0（ 1 / 1 ）
1,750-1,999g	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）
2,000-2,249g	100.0（ 2 / 2 ）	100.0（ 3 / 3 ）
2,250-2,499g	100.0（ 4 / 4 ）	100.0（ 2 / 2 ）
2,500g以上	100.0（ 49 / 49 ）	100.0（ 47 / 47 ）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

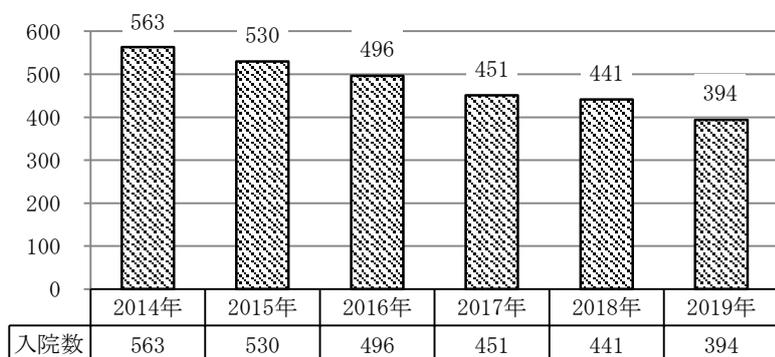
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

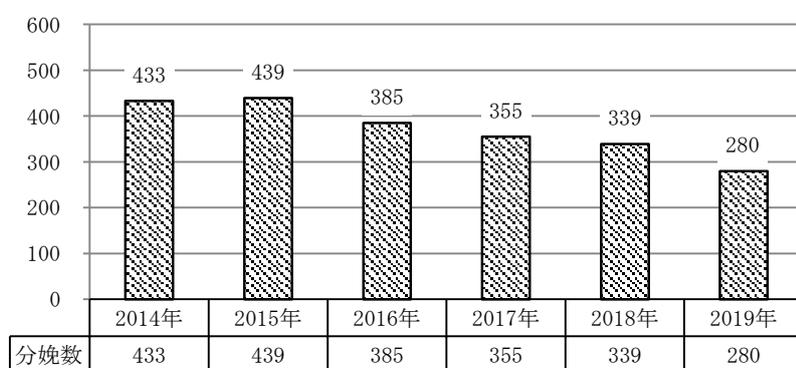
該当なし

(2) 大和郡山病院

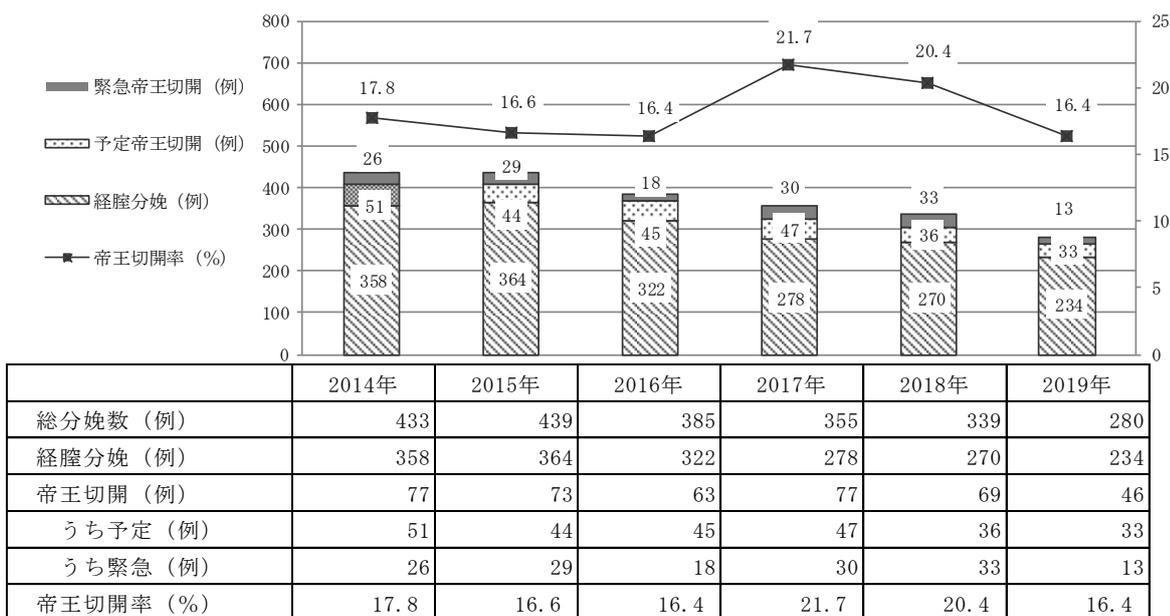
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35週	1	3	2	3	3	1
36週	7	3	6	9	5	4
37週	45	44	42	33	38	25
38週	102	88	81	90	73	65
39週	120	131	125	102	113	82
40週	131	117	97	99	79	83
41週	29	39	28	16	27	17

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	2	1	1	1	1	-
2,000-2,499g	26	22	27	21	20	8
2,500g以上	407	402	356	330	317	269

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	326	308	292	241	249	202
35-39歳	96	98	74	94	79	64
40-44歳	18	23	19	17	10	14
45歳以上	-	-	-	-	1	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	3	2	2	4	12	2
子宮筋腫（核出術後）	2	6	-	1	3	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	-	-	-	-	2
子宮奇形	-	-	-	-	1	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1	-
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1	3
糖尿病（含GDM）	3	1	2	2	3	4
喘息	4	2	3	2	5	1
本態性高血圧	1	1	-	-	-	-
循環器疾患	-	-	1	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	2	2	1	-
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	1	-	-	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	3	4	4	10	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	104	99	107	93	76	38
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15	17
胎内胎児発育制限	5	3	4	6	3	3
多胎妊娠	2	2	2	2	1	1
前置胎盤	-	1	-	-	-	1
産後出血	3	-	2	-	6	1
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	70	56	45	10
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-	-
HELLP症候群	-	1	-	5	1	1
低置胎盤	-	1	1	-	1	1
血液型不適合	5	1	2	1	1	-
羊水過小	-	-	-	-	-	4
先天異常	-	5	5	2	2	-

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	-	-	1	4	2
産道血腫除去術	2	1	-	-	1	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	1	-	2	-	3	2

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	2	1
うちMD	1	-
うちDD	1	1

（※2018年より新規集計）

◆ 先天異常（例 重複あり）

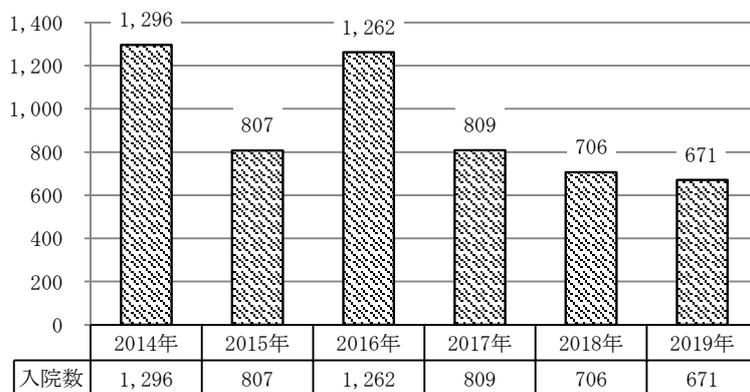
疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	2	2	-	-

（※2018年より新規集計）

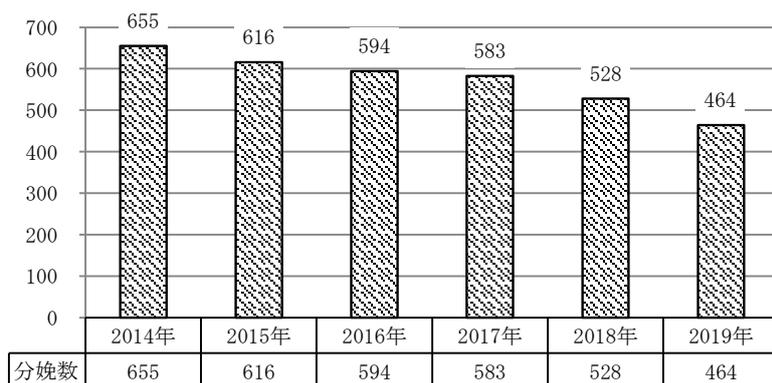
(3) 大和高田市立病院

入院数、分娩数ともに減少傾向である。帝王切開率、合併症等はほぼ変化ない。

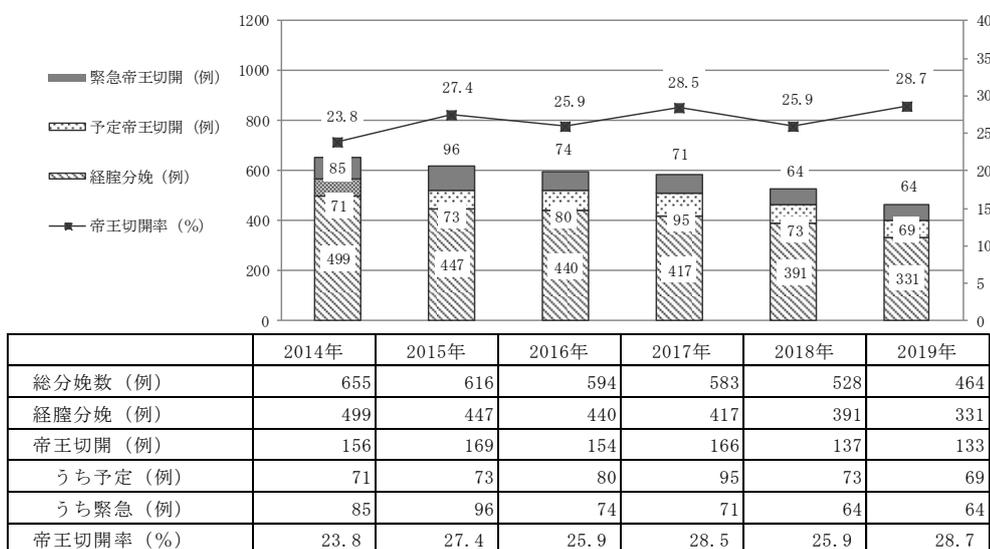
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
34週	-	-	-	-	-	1
35週	3	2	5	3	-	2
36週	23	14	17	15	21	22
37週	63	61	56	70	53	45
38週	166	138	134	136	115	115
39週	205	172	180	174	156	135
40週	172	193	167	155	143	115
41週	22	30	35	30	40	29

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	1	-	1	-	1	1
2,000-2,499g	65	51	34	40	35	33
2,500g以上	588	563	559	545	492	430

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	507	475	471	430	400	84
35-39歳	120	116	99	120	103	362
40-44歳	27	24	22	33	25	18
45歳以上	-	1	2	-	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

「子宮筋腫」の「1」と「子宮筋腫（核出術後）」の「1」は同一患者。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	5	4	8	7	-	1
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	8	3	5	6	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	4	2	-	-
子宮奇形	-	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2	1
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-	-
糖尿病（含GDM）	18	9	10	7	10	14
喘息	4	2	3	3	-	-
慢性腎炎	2	-	-	2	-	1
本態性高血圧	-	-	-	-	-	17
ITP	-	-	-	-	-	1
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	3
循環器疾患	-	2	2	2	5	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	2	1	1	2
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	4	2	2	-	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	3	1	4	5	4	4

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	41	65	76	103	98	12
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19	21
胎内胎児発育制限	10	8	1	1	3	8
多胎妊娠	4	4	2	2	1	-
前置胎盤	2	1	1	2	-	1
産後出血	40	29	8	10	10	-
子癇	-	-	-	-	3	2
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	-	3	1
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4	1
HELLP症候群	-	-	-	-	-	-
低置胎盤	2	2	-	-	-	1
血液型不適合	4	-	4	3	1	-
羊水過多	-	-	-	1	1	8
羊水過小	4	1	-	-	-	1
先天異常	1	1	2	-	1	1

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	2	2	1	1
産道血腫除去術	-	2	-	2	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	2	4	1	5	2	6

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	1	-
うちMD	-	-
うちDD	1	-

（※2018年より新規集計）

◆ 先天異常（例 重複あり）

疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
脳室拡大	1	1	-	-
心室中隔欠損	5	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	1
水腎症	1	-	-	-
血管腫	6	-	-	-

（※2018年より新規集計）

◆ 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年
母体搬送収容数	-	1

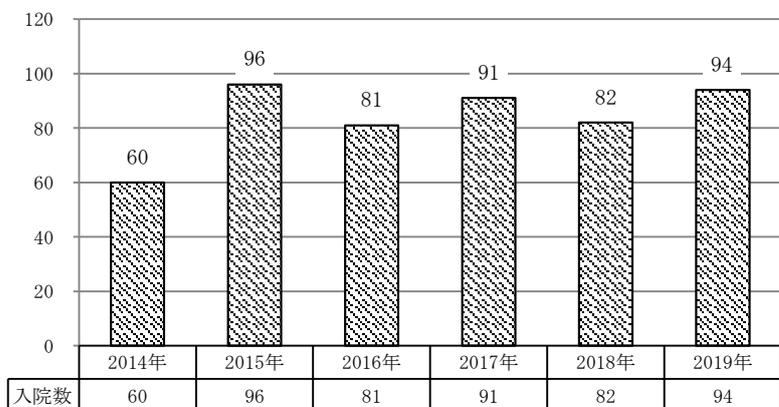
（※2018年より新規集計）

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）

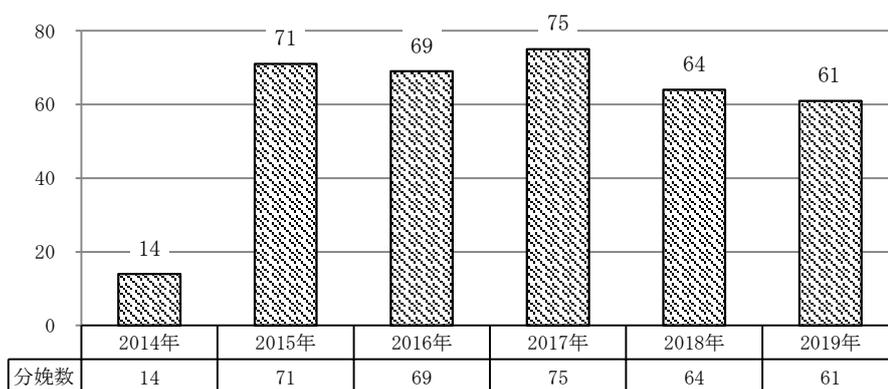
	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・ 前期破水（早産期）	-	1

(4) 高井病院

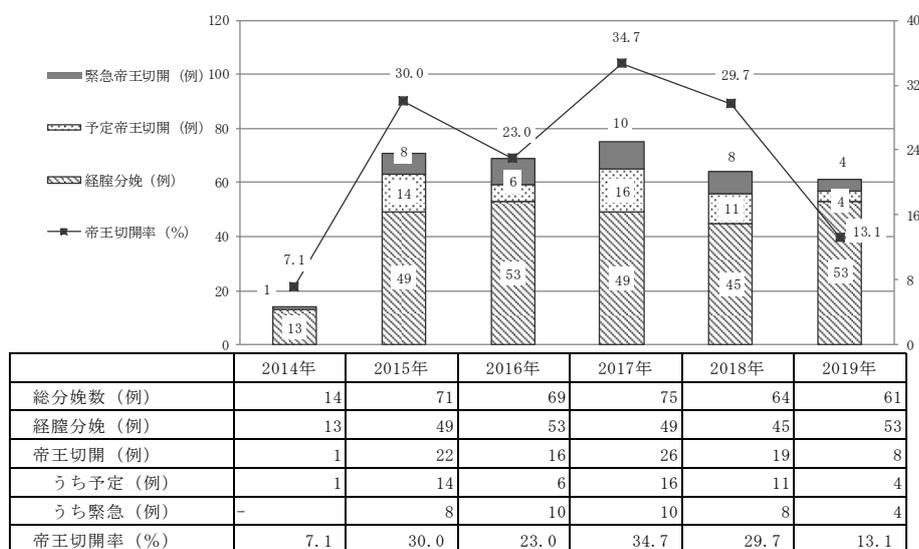
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
31週	-	-	-	1	-	-
32週	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2	-
36週	-	2	2	1	-	2
37週	1	12	5	11	12	4
38週	7	13	12	14	22	15
39週	1	16	19	24	9	15
40週	3	21	20	18	14	18
41週	2	5	11	4	5	7

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-
2,000-2,499g	-	7	4	7	5	3
2,500g以上	14	63	65	67	59	58

◆ 出産時年齢（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	10	59	55	59	50	52
35-39歳	3	11	12	14	12	8
40-44歳	1	1	2	2	2	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	-	-	-	3	-	2
子宮筋腫（核出術後）	-	-	-	-	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	2	1	2	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	-	2	-
子宮奇形	-	-	1	-	-	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-
糖尿病（含GDM）	-	-	-	-	-	2
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	-	7	10	9	5	11
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2	-
胎内胎児発育制限	-	1	1	2	-	-
多胎妊娠	-	-	-	1	-	-
産後出血	-	-	-	5	-	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	-	-	11
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-	-
低置胎盤	-	-	1	-	-	1
血液型不適合	-	-	-	2	1	1
先天異常	-	-	-	2	-	2

切迫早産：10例、前期破水：1例

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	-	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	-	-	-	-	1	-

◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

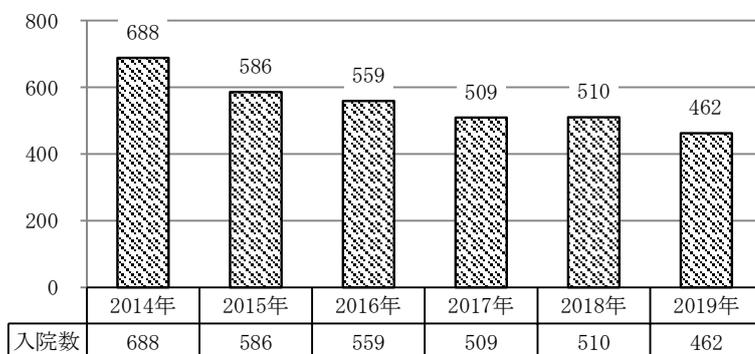
◆ 先天異常（例 重複あり）

疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	1

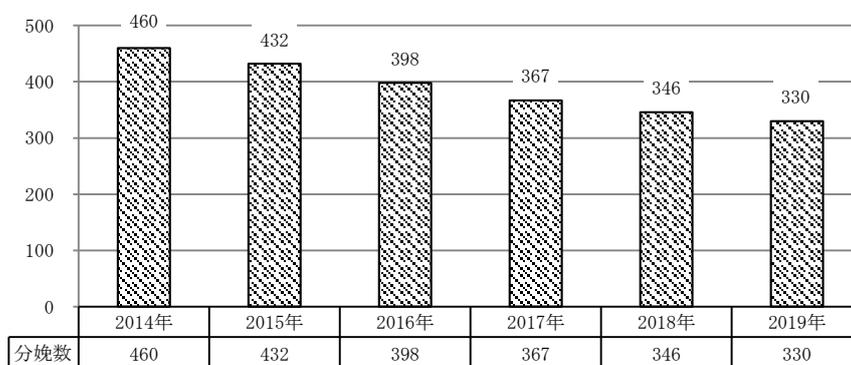
（※2018年より新規集計）

(5) 桜井病院

◆ 入院数 (例)

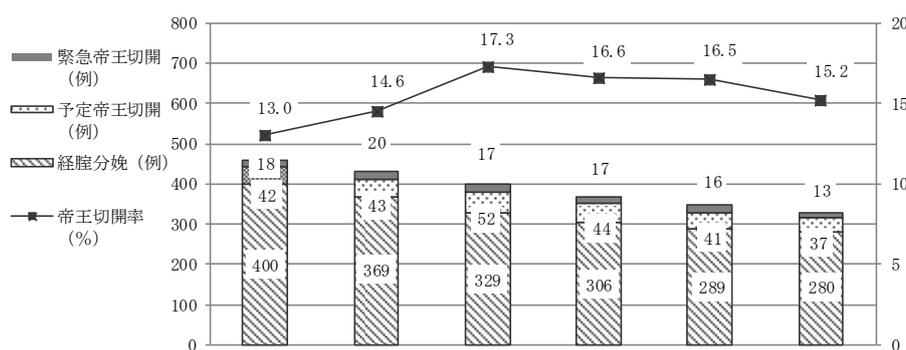


◆ 分娩数



◆ 分娩様式

帝王切開率は、15%前後で大きな変動はみられていない。



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総分娩数 (例)	460	432	398	367	346	330
経膣分娩 (例)	400	369	329	306	289	280
帝王切開 (例)	60	63	69	61	57	50
うち予定 (例)	42	43	52	44	41	37
うち緊急 (例)	18	20	17	17	16	13
帝王切開率 (%)	13.0	14.6	17.3	16.6	16.5	15.2

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
34週	-	1	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3	4
37週	68	62	80	63	54	60
38週	70	74	65	66	46	65
39週	123	145	129	113	116	83
40週	144	102	88	89	95	87
41週	48	42	30	31	31	31
42週	-	1	-	-	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	-	-	-	-	-	1
2,000-2,499g	17	17	23	13	19	28
2,500g以上	443	415	373	354	327	301

◆ 出産時年齢（例）

35歳未満のうち、20歳未満に当たる若年妊婦は2名であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	360	344	304	278	266	256
35-39歳	87	78	83	78	66	61
40-44歳	13	10	9	11	14	13

◆ 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	9	10	4	5	6	9
子宮筋腫（核出術後）	-	1	-	2	2	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	3	6	10	1	8	4
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	2	1	-	1	1
子宮奇形	-	-	-	-	-	1
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2	5
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16	6
糖尿病（含GDM）	3	3	4	5	4	5
喘息	2	-	1	2	3	8
本態性高血圧	-	-	-	-	1	-
循環器疾患	-	-	-	-	3	1
精神科疾患（含てんかん）	1	-	4	2	1	-
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	2	-	-	1	-	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	2	1	1	1
その他	12	-	4	5	-	10

◆ 産科合併症（例 重複あり）

切迫早産は 65 例、前期破水は 2 例。

その他の内容については 3 例とも癒着胎盤であり、うち 1 例は他院へ搬送。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	7	3	5	4	1	67
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8	3
胎内胎児発育制限	6	-	-	-	-	1
産後出血	8	11	4	4	1	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	4	4	6	-
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1	-
低置胎盤	1	4	1	2	1	-
血液型不適合	-	6	3	2	3	3
先天異常	5	8	7	2	8	4
その他	-	-	-	1	6	3

（※2014年～2018年は前期破水のみカウント）

◆ 産科手術他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	10	-	-	2	-
その他	-	-	-	-	2	1

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

◆ 先天異常（例 重複あり）

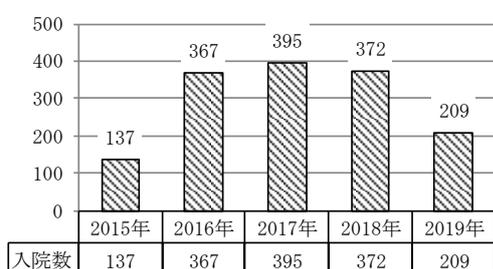
疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	2	2
ファロー四徴症	-	-	1	-
水腎症	8	8	2	2

（※2018年より新規集計）

(6) 奈良県西和医療センター

奈良県西和医療センター産婦人科は、奈良県総合医療センター産婦人科（以下県総合）と医療連携・一体化を図るために2019年8月1日分娩業務を休止した。そして当院では妊婦健診、産後健診および乳児健診を行い、分娩は県総合に一括化する体制とした。分娩休止時点の当院分娩予約者は90名で、53例（59%）が県総合での分娩を希望されたが、90名全員においてインフォームド・コンセントが得られ、その後の健診や分娩場所変更は潤滑に行われた。本体制により、西和医療圏のより安心安全な周産期医療の確保が期待される。

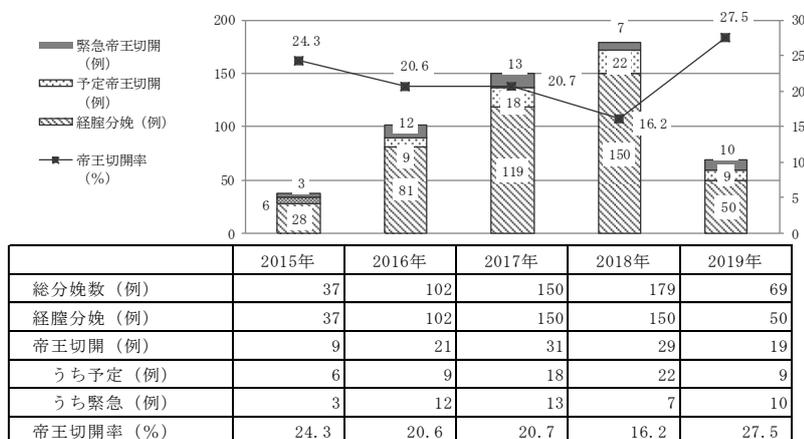
◆ 入院数（例）



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
22週	-	-	-	-	1
23週	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-
25週	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-
36週	-	4	3	1	2
37週	7	12	10	25	10
38週	7	28	34	34	15
39週	11	28	50	42	18
40週	11	25	37	61	15
41週	1	4	15	15	8

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
500g未満	-	-	-	-	1
500-999g	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	-	-	-	-	-
1,500-1,999g	-	-	-	-	-
2,000-2,499g	1	8	14	5	6
2,500g以上	36	94	135	173	62

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	29	70	111	129	53
35-39歳	4	28	30	41	13
40-44歳	4	4	8	8	3
45歳以上	-	-	-	1	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	1	1	1	3	-
子宮筋腫（核出術後）	-	-	-	1	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	-	-	-	-
甲状腺機能低下症	2	-	-	-	-
糖尿病（含GDM）	-	-	-	1	-
喘息	-	-	-	1	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	1	-
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	-	8	6	11	3
妊娠高血圧症候群	-	2	7	5	3
産後出血	9	-	-	-	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	34	40	31	5
羊水過小	-	-	-	1	-
先天異常	-	-	-	1	-

◆ 産科手術他（例）

該当なし

◆ 先天異常（例 重複あり）

該当なし

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

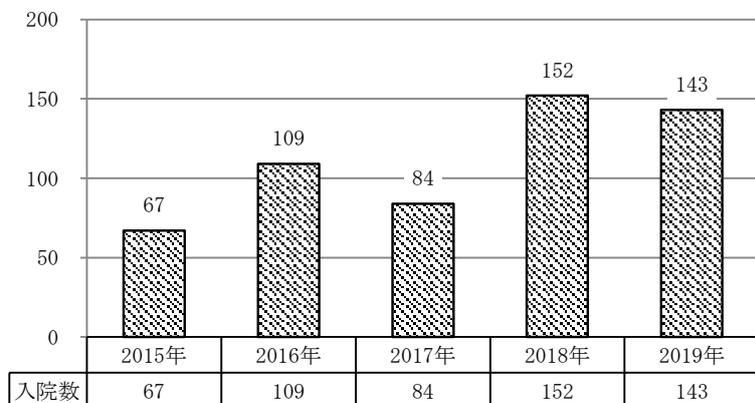
◆ 多胎妊娠（例）

該当なし

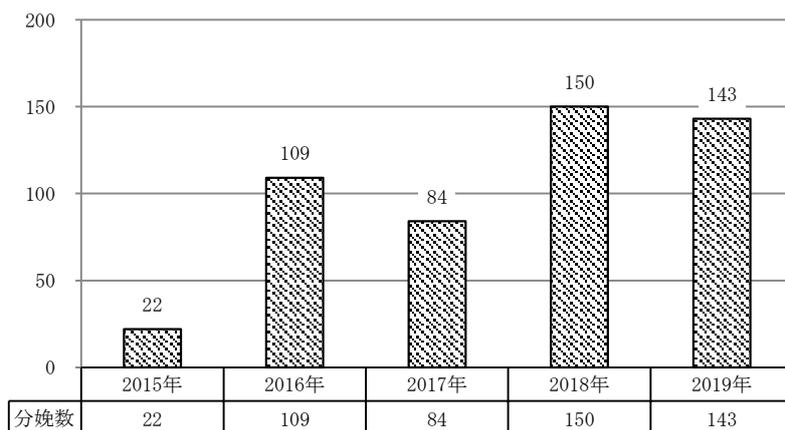
(7) 生駒市立病院

※2015年については2015.6.1(開設日)～2015.12.31のデータ

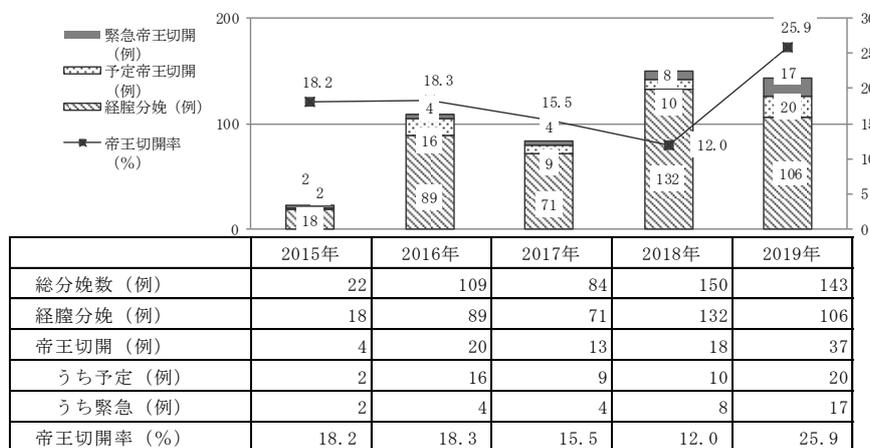
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35週	-	-	-	1	-
36週	-	1	-	11	1
37週	-	6	8	8	14
38週	9	31	14	30	28
39週	8	28	30	42	35
40週	4	33	26	47	55
41週	1	10	6	11	9
42週以上	-	-	-	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-
2,000-2,499g	1	3	2	13	12
2,500g以上	21	106	81	136	131

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	15	67	50	101	102
35-39歳	4	35	23	39	31
40-44歳	3	7	10	10	10
45歳以上	-	-	1	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	-	1	-	7	2
子宮筋腫（核出術後）	-	2	2	2	4
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	1	-
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	1
糖尿病（含GDM）	-	1	3	4	7
喘息	-	-	3	2	2
本態性高血圧	-	-	-	1	-
自己免疫疾患	-	-	-	1	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	1	-	-
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	-	1
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	2	-	-
その他	-	-	2	1	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産（入院のみ）・前期破水（早産期）	1	3	2	2	-
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4
胎内胎児発育制限	-	-	1	-	-
多胎妊娠	-	-	-	-	1
前置胎盤	1	1	1	-	2
産後出血	-	1	-	-	-
弛緩出血（羊水を含む出血量800ml以上）	-	-	-	1	7
低置胎盤	-	-	-	1	-
血液型不適合	-	-	-	1	-
羊水過多	-	7	-	-	-
羊水過小	-	8	-	-	-
先天異常	-	1	-	-	1

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	6	10	11	-
子宮摘出術	7	3	11	6	-
その他	-	-	31	32	2

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例数	-	-	2	-	3

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	-	1
うちMD	-	-
うちDD	-	1
うち不明	-	-

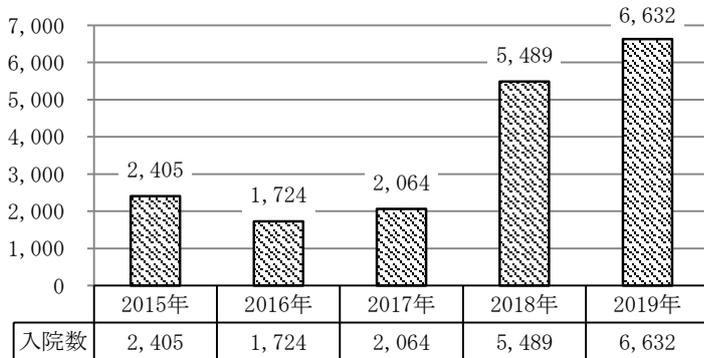
◆ 先天異常（例 重複あり）

疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	-

（※2018年より新規集計）

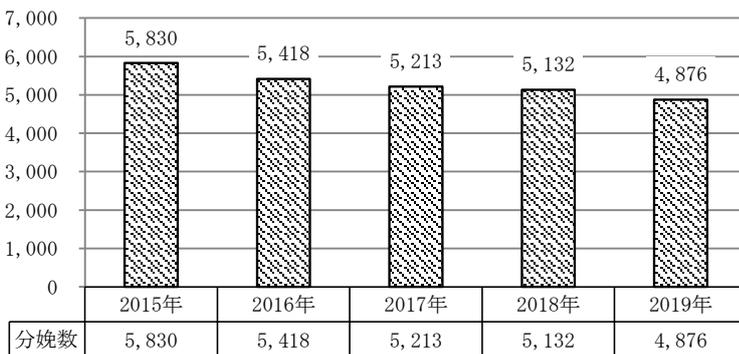
7. 県内分娩取扱診療所

◆ 入院数（例）

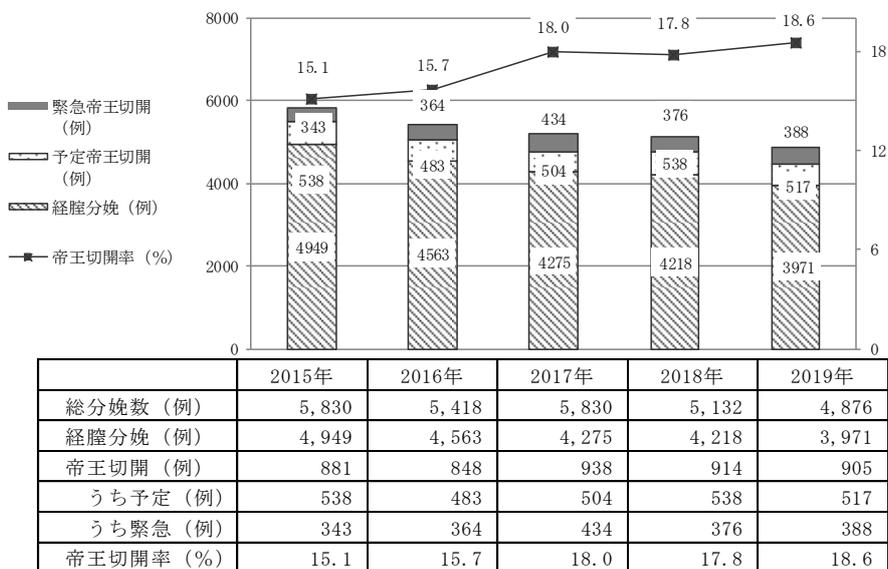


(※2015～2017年 一部医療機関未回答)

◆ 分娩数（例）



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
27週	-	-	-	-	1
28週	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	1	-
32週	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	3	1
35週未満	3	3	-	-	-
35週	15	14	12	11	9
36週	98	89	94	91	94
37週	458	438	414	401	323
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398
41週	536	489	447	513	405
42週以上	31	12	26	24	15

（※2017年までは、35週未満はまとめて集計）

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1,000-1,499g	-	-	-	-	1
1,500-1,999g	10	2	6	8	5
2,000-2,499g	280	244	247	250	204
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016
40-44歳	180	207	226	210	223
45歳以上	2	-	6	1	4

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	58	103	47	73	92
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10	17
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19	21	18
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10	10	9
子宮奇形	3	7	1	3	3
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29
糖尿病（含GDM）	9	20	40	18	18
喘息	27	28	46	56	41
慢性腎炎	-	-	1	-	-
本態性高血圧	3	-	-	-	6
ITP	-	2	1	-	-
自己免疫疾患	1	-	4	3	2
循環器疾患	3	-	1	4	2
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10	12
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	13	9	5	4	2
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	2	6	1	3
その他	1	1	7	45	16

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産・前期破水	268	455	146	242	229
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111
胎内胎児発育制限	41	38	82	30	58
多胎妊娠	2	4	1	3	3
前置胎盤	3	2	-	1	-
産後出血	168	165	75	117	55
子癇	-	-	-	1	-
弛緩出血	-	-	-	150	107
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10
HELLP症候群	3	1	1	1	3
低置胎盤	5	17	15	3	8
血液型不適合	18	14	13	9	8
羊水過多	11	33	24	15	16
羊水過小	26	47	38	53	51
先天異常	24	6	7	5	15
その他	8	13	2	1	2

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20	28
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	7	2	1	-	-
産道血腫除去術	11	6	6	5	7
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-	-
その他	5	1	-	-	12

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
輸血治療症例	14	8	8	7	10

◆ 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年
双胎	3	3
うちMD	2	-
うちDD	1	3

(※2018年より新規集計)

◆ 先天異常（例 重複あり）

疾患名	2018年		2019年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	4	1	1	1
手指異常（合指/多指）	1	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	2	-
心室中隔欠損	6	-	5	-
胎児水腫	1	1	1	1
小腸閉鎖	1	1	-	-
尿道下裂	1	-	2	-
口唇裂・口蓋裂	2	-	4	1
不整脈	1	-	-	-
ファロー四徴症	1	-	-	-
鎖肛	1	-	-	-
心臓腫瘍	-	-	-	-
卵巣嚢腫	2	2	-	-
大動脈離断症	-	-	1	1
血管腫	13	-	1	-

(※2018年より新規集計)

8. 県内分娩取扱助産所

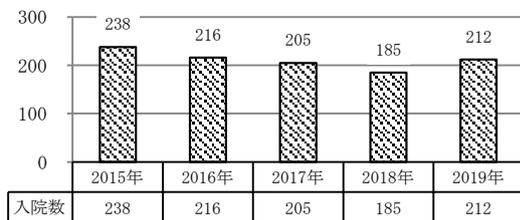
奈良県内における分娩取扱有床助産所は1施設が閉院（2020年3月31日付）となり、2020年4月1日より7施設となる。助産業務が健全な体制で行われるように「産婦人科診療ガイドライン2020」「助産業務ガイドライン2019」「NCPR2015」等を各施設の基本的指針としている。

2007年（平成19年）医療法の一部改正により「助産所は嘱託医・嘱託医療機関を定める」となりより一層の安全が図られる事となった。

奈良県においては後方支援病院の体制が整えられ、母子の安全を第一義に適切な対応が構築されている。

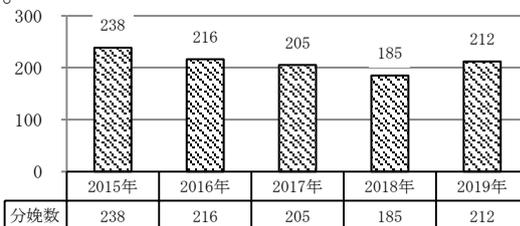
◆ 入院数（例）

助産所に分娩開始し入院。その後、微弱陣痛等で分娩に至らず、搬送となった症例が含まれておらず、次年度からの集計の在り方を考える事とする。

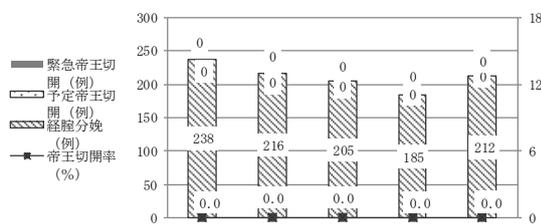


◆ 分娩数（例）

県下の出生数減少に伴い、助産所分娩数も減少傾向にはあるが激減する事なく前年度と同様の件数を維持。



◆ 分娩様式



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総分娩数(例)	238	216	205	185	212
経膈分娩(例)	238	216	205	185	212
帝王切開(例)	-	-	-	-	-
うち予定(例)	-	-	-	-	-
うち緊急(例)	-	-	-	-	-
帝王切開率(%)	-	-	-	-	-

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

助産業務ガイドラインにより 41 週以降は嘱託医との協働管理となり、妊婦・家族・嘱託医師・助産師の協議により方向性を決定する。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
37週	14	-	12	9	18
38週	35	10	44	36	37
39週	94	43	68	66	73
40週	87	69	62	68	62
41週	7	84	19	6	22
42週	1	10	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2,500g未滿の生下時体重が7例と増加している。内訳は2,300g台2例、2,400g台が5例となる。妊娠時の体重増加等との相関関係を振り返る必要がある。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
2,000-2,499g	1	3	2	1	7
2,500g以上	237	213	203	184	205

◆ 出産時年齢（例）

近年の35歳以上の分娩数の増加が助産所においても同様で2015年より約1.5倍となり、より高度なフィジカルアセスメント力が必要となる。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
35歳未滿	183	141	146	133	126
35-39歳	48	67	50	44	73
40-44歳	7	9	9	8	12
45歳以上	-	-	-	-	1

◆ 合併症妊娠（例）

その他：下肢血栓（12週）1例 は、総合病院産婦人科へ転院。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮筋腫	3	1	5	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

連携医療機関との医療連携により前期破水、切迫早産症例等については妊娠週数に応じて県内の総合・地域周産期母子医療センターへ母体搬送している。切迫早産例は正期産の時期になれば、逆紹介され助産所で分娩できた例も少なくない。その他の母体、新生児の異常についても連携医療機関、嘱託医との医療連携によりスムーズな受け入れ体制を維持している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6	4
胎内胎児発育制限	2	-	-	-	1
産後出血	-	-	1	3	12
先天異常	-	-	-	2	1
その他	-	1	-	1	1

先天異常：ヒグローマ（14週）1例、その他：座骨神経痛（29週）1例

◆ 産科手術他（例）

頸管縫縮術後、37週以降に助産所にて分娩となった症例である。

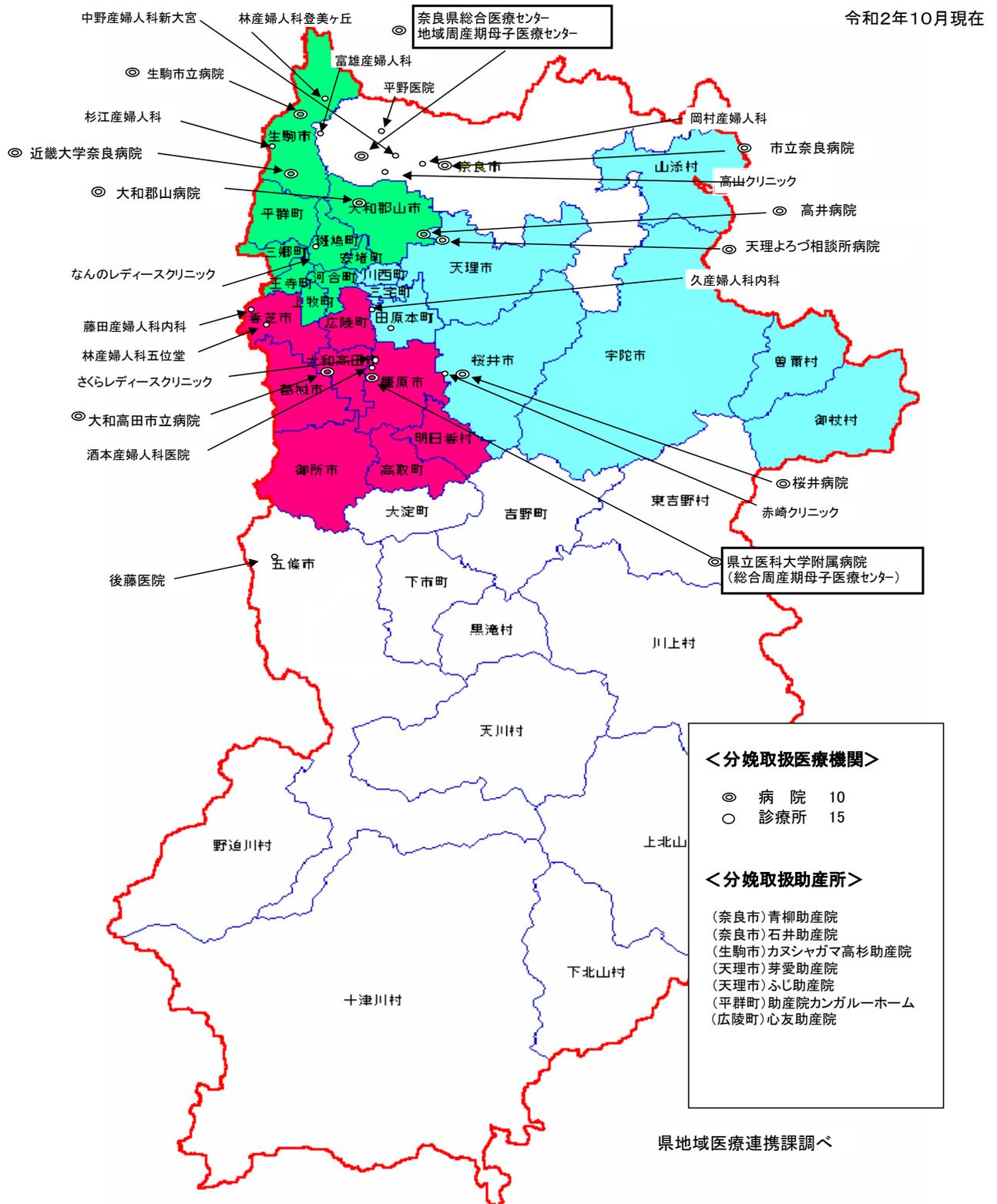
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1
産道血腫除去術	-	-	1	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

該当なし

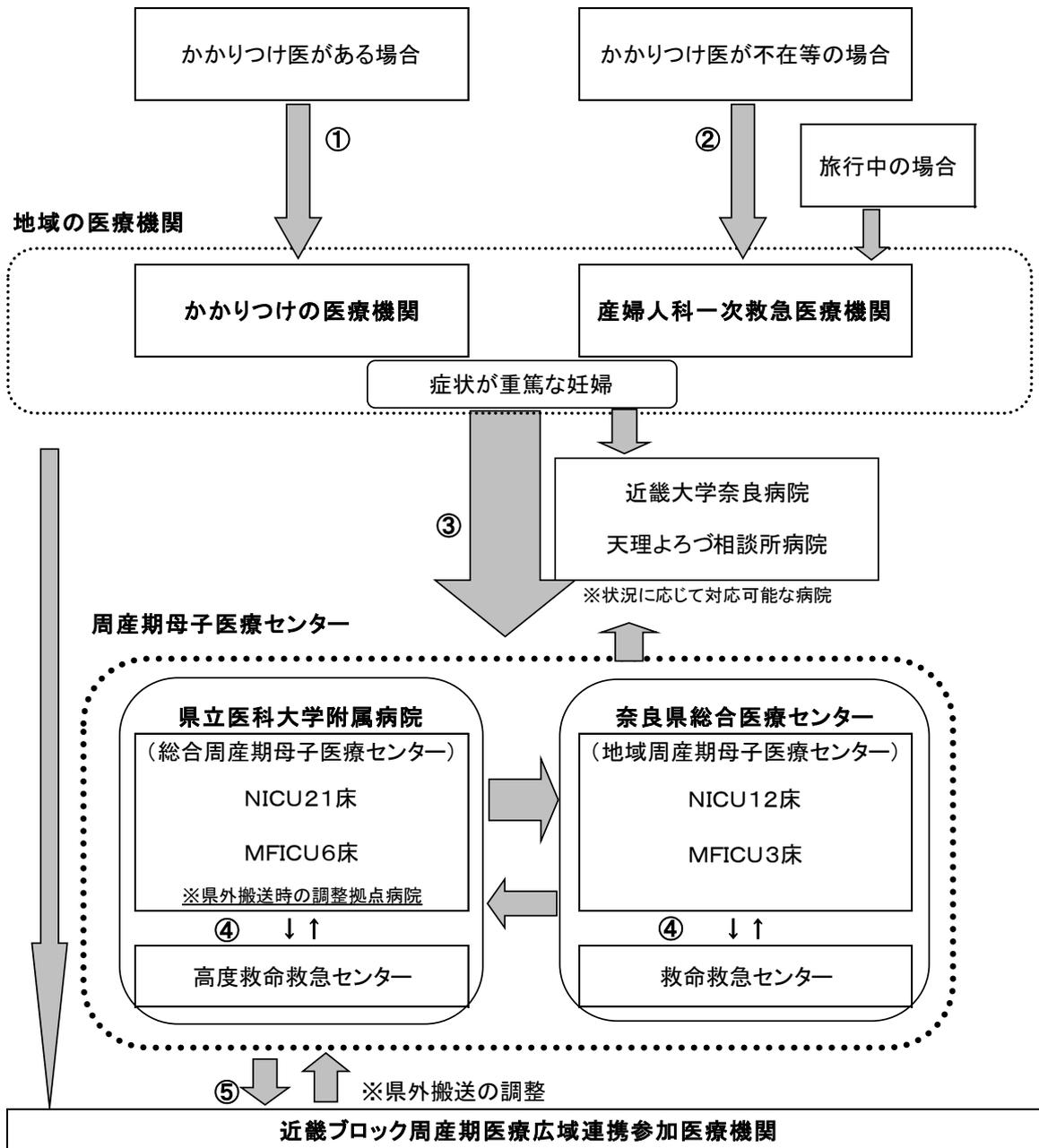
III. 参考資料

1. 奈良県産婦人科（周産期）医療体制図



2. 母体搬送連携イメージ

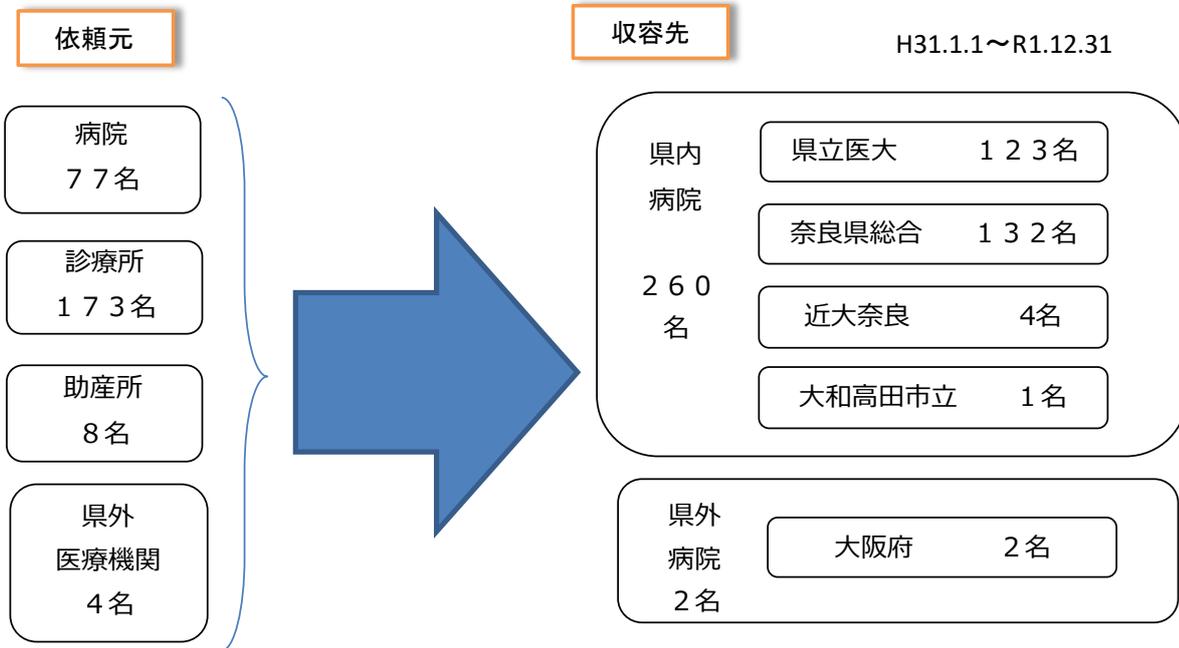
令和2年10月現在



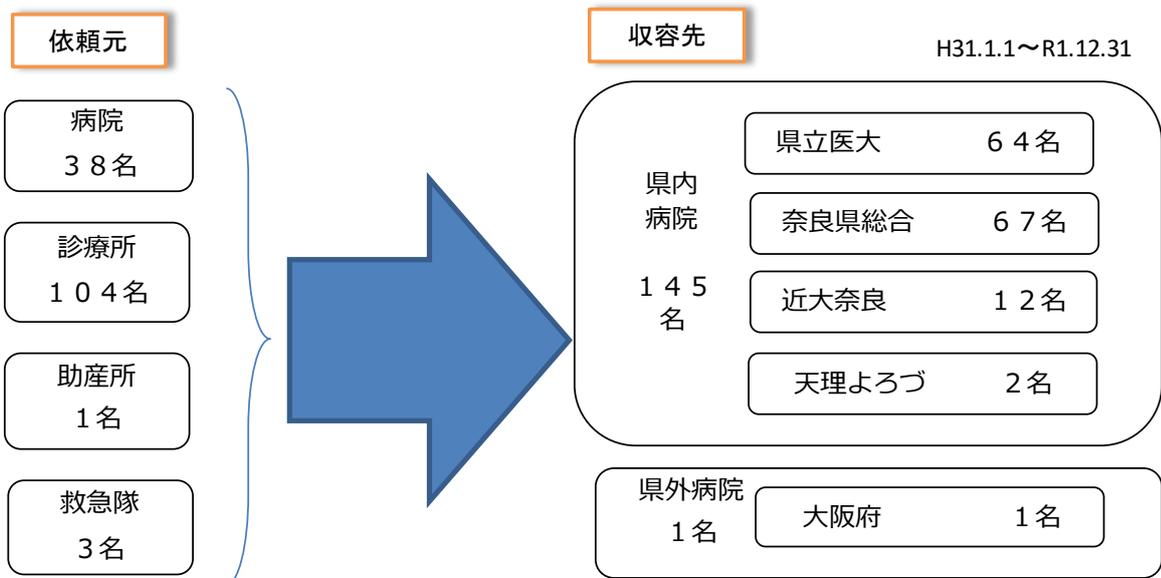
- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がないもしくは対応できない場合には産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は周産期母子医療センターが対応
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

3. 母体・新生児搬送状況

◆母体搬送



◆新生児搬送



4. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

産婦人科一次救急体制参加医療機関一覧

(地域別、五十音順)
(令和2年10月1日現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂医院	香芝市真美ヶ丘一丁目13-27 0745-71-5201

5. 産婦人科対応マニュアル

産婦人科救急対応マニュアル（抜粋）

1. 一次救急編

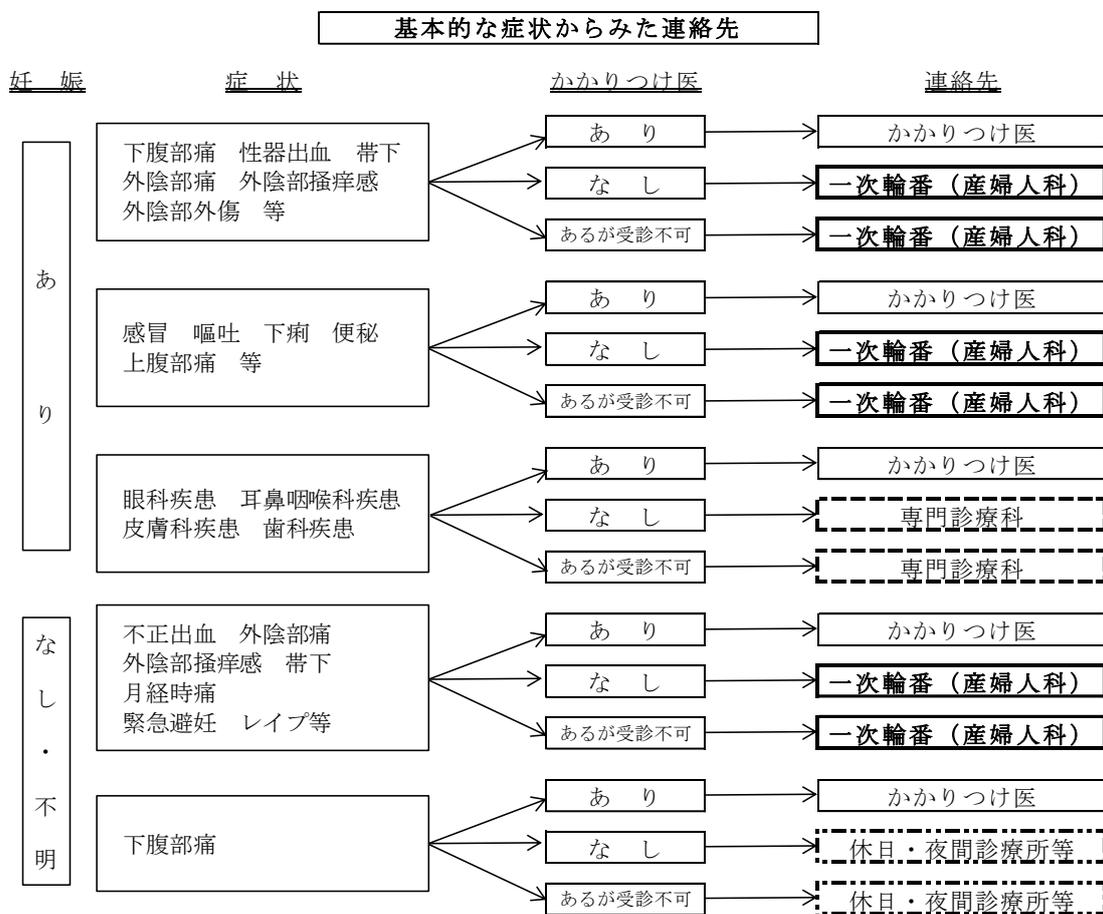
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいままでのため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



6. 分娩取扱医療機関一覧

令和2年10月1日現在

医療機関名		医療圏	住所
1	奈良県総合医療センター	奈良	630-8581 奈良市七条西町897番5号
2	市立奈良病院	奈良	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
3	高井病院	東和	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
4	天理よろづ相談所病院	東和	632-0015 天理市三島町200番地
5	桜井病院	東和	633-0091 桜井市桜井973
6	大和郡山病院	西和	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
7	近畿大学奈良病院	西和	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
8	生駒市立病院	西和	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
9	県立医科大学附属病院	中和	634-0813 橿原市四条町840
10	大和高田市立病院	中和	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院計		10	
11	高山クリニック	奈良	630-8031 奈良市柏木町190-5
12	富雄産婦人科	奈良	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
13	平野医院	奈良	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
14	岡村産婦人科	奈良	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
15	中野産婦人科新大宮	奈良	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
16	赤崎クリニック	東和	633-0053 桜井市大字谷111
17	久産婦人科	東和	636-0304 磯城郡田原本町十六面23番地の1
18	なんのレディースクリニック	西和	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
19	杉江産婦人科	西和	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
20	林産婦人科登美ヶ丘	西和	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
21	酒本産婦人科	中和	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
22	藤田産婦人科	中和	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
23	林産婦人科五位堂	中和	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
24	さくらレディースクリニック	中和	634-0803 橿原市上品寺町528
25	後藤医院	南和	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所計		15	
26	青柳助産院	奈良	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
27	石井助産院	奈良	630-8107 奈良市奈保町5番21号
28	カヌシャガマ高杉助産院	西和	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
29	芽愛助産院	東和	632-0094 天理市前栽町274-1
30	ふじ助産院	東和	632-0004 天理市樺本町2071-8
31	助産院カンガルーホーム	西和	636-0904 生駒郡平群町三里139-9
32	心友助産院	中和	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所計		7	

県地域医療連携課調べ

7. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和2年3月31日現在

区 分	役 職	氏 名
医科大学 (総合周産期 母子医療センター)	奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	小林 浩
	奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	箕輪 秀樹
病 院	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	近畿大学奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
	近畿大学奈良病院 小児外科教授	米倉 竹夫
助産師会	奈良県助産師会	高橋 律子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良市消防局救急課長)	谷手 浩司
奈 良 県	福祉医療部 医療政策局長	鶴田 真也

奈良県周産期医療年報

令和2年（2020年）12月

発行 奈良県周産期医療協議会